

ウィズ・コロナ下の 対面授業・課外活動に 関するアンケート

【結果報告】

東京大学教養学部学生自治会学部交渉局

令和 2 年(2020 年) 9 月 30 日(水)

【調査の概要】

実施期間

令和 2 年(2020 年) 8 月 30 日(日)から令和 2 年(2020 年) 9 月 29 日 18 時

期限は、当報告書を作成した時点。

実施主体

東京大学教養学部学生自治会学部交渉局

実施対象と広報媒体

主に前期課程生。

広報手段：Twitter、LINE@

回答数

299 件

注意事項

回答の百分率(パーセント)については、それぞれについて四捨五入したものを表示しており、必ずしも合計が 100%になるとは限らない。

記述回答については、明らかに質問と関係のないものおよび回答中の個人情報は編集し取り除いた。

【0】基本属性

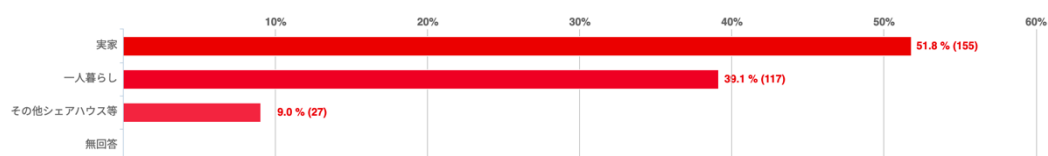
Q1 住まいについて質問します。現在の居住形態を教えてください。住んでいた、または住む予定だったアパート等の契約を残したまま一時的に実家に滞在している場合は、「実家」ではなく予定の住まいを教えてください。

回答数：299

○概説

実家と答えた人がおよそ半数、一人暮らしと答えた人が約 4 割となった。

○グラフ



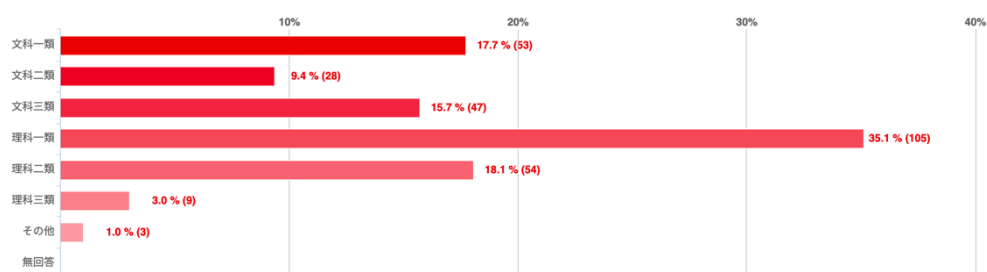
Q2 あなたの科類を教えてください。

回答数：299

○概説

概ね学生の所属割合と近い分布となった。文科一類の定員は全体の定員に対して 13.1%であるところ、本アンケートの回答者に占める文科一類の割合は 17.7%と、若干高めであるようにも見受けられる（検定は実施していない）。

○グラフ



○その他回答

法学部(2)、総合文化研究科(1)

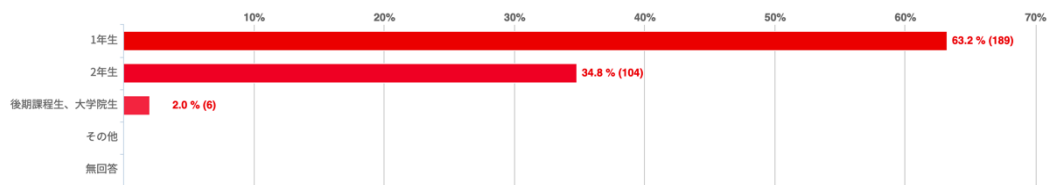
Q3 あなたの学年を教えてください。

回答数：299

○概説

1年生の回答数が2年生の倍近くとなった。

○グラフ



【1A セメスターのクラス指定基礎科目等の開講形態について】

(説明)

7月29日に、一部基礎科目のみ対面で開講する予定との発表がありました。

しかしながら、「2020年度Aセメスターにおける対面授業実施について」及び本会執行部員が直接学部長室の教員とお話ししたところでは、まだ学部は意見を固めきれていない状態にあります。

また、家賃の問題等のある下宿生など、学生の皆さんの多様なご意見が反映されることも大切です。

そこで1年生のみなさんがどのような対応を希望されているのか、学生として率直なご意見をお伺いしたいと考えています。

ご回答をよろしくお願いします。

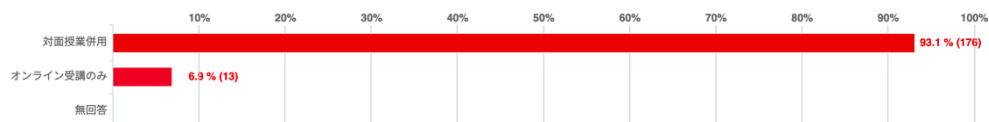
Q4 現時点で、「対面授業併用」と「オンライン受講のみ」のどちらを選択される予定ですか。

回答数：189

○概説

9割を超える学生が「対面授業併用」と回答した。対面授業に高い需要があることが示唆される。

○グラフ



Q5 Q4 の回答の理由をなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：135

○回答

[Q4 対面授業併用]

- ・オンライン授業はとてもストレスが大きく、運動不足になって体調も悪化するから、キャンパスに行って授業を受けたいから。
- ・オンラインでは交友関係を築くことが困難なので、対面授業の中で、学生生活の重要な側面である、他の学生との交流を深めたいから。（S セメスターでその機会が奪われたので）
- 1 年生で一度も大学に通えていない。受験生時代に楽しみにしていた大学生活を少しでも体験してみたい。駒場に行きたい。
- ALESS で実験設備を使えないのは辛い。友人と直接会って話せないのが寂しい。
- オンライン授業と比べて、対面授業がどんなものかを早く体験したかったから。（実際に受けることでどのような利点、欠点があるのかがわかりやすくなると思った。）また、クラスの人たちと合える機会が増えると考えたから。
- S セメスターで毎日家で勉強するのが精神的に辛かったため
- いまだに一度も対面授業を受けたことがなく、思い描いていた学生生活を送れていないため。むしろ全てを対面にしてもらいたい。
- オンラインだとつまらない授業がある
- オンラインでは、他者との交流が希薄になる気がする。オンラインのみでは 1 年生は大学に入った実感がないうまま一年過ぎてしまう。
- オンラインで受けたいという気持ちがあるが、「オンライン受講のみ」を申請するためのやむを得ない理由が無いから。
- オンラインのみだとモチベーションが保たれず、クラスメートとさえも直接顔を合わせたことがないため
- オンラインの申請は例外、一部対面が原則と感じるから。
- オンライン受講のみだと、対面予定の授業とは違うものを受けることになるという噂を聞いたから。
- オンライン授業だと集中できない、画面上ではわかりにくい授業がある、図書館等のサービスを利用しづらい、
- オンライン授業に大学の価値を全く感じなかったため。学生達の交流を自分は重視しているため。
- オンライン授業の方が負担は少ないが、せっかくだからたまにはキャンパスに通ってもいいと思ったから
- オンライン授業は面白くない。大学に入った実感が得られない。

- キャンパスで学びたい
- キャンパスに行って同じクラスの友達と会話してみたい。家にこもってるより外の方が勉強に集中できる。
- キャンパスに通いたい
- キャンパスに通いたいから 同級生に会いたいから
- キャンパスに通いたいから。
- キャンパスに通ってこそ充実した学びができると思っているから。
- キャンパスに通って授業を受けたいから。同級生と交流したいから。
- クラスの人などと交流したいから
- クラスメイトに会いたい、ただそれだけです。
- クラスメイトに会いたい、学校に通うという大学生らしいことをしたい
- クラスメイトや大学の友達に会いたいから。
- この選択が多数派だろうと予想したから
- ずっと家にいたら鬱になってしまうから。友人と話す時間が授業前後に取れることは精神上良いと思うから。
- スポ身など、オンラインでは到底十分とは言えない講義がある。また、大学生協や図書館の利用、クラス等での人間関係の構築など、授業以外にもキャンパスに行く意義は大きい。
- せっかくの大学生活、他の諸々は再開してるのに大学だけダメって納得がいかないから
- せっかく東大に来たのに一度もその雰囲気味わったり同クラと顔を合わせたりすることなく一年が過ぎていくのが虚しすぎるから。
- せっかく用意していただいた機会だから
- そっちの方が多そうだから。ぶっちゃけオンラインがデフォルトならオンラインにした。
- そもそもこれまで大学は対面で授業することが基本だったから。S セメスターから同級生に会えない不安のため対面の早期復活を望んでいたから。
- できるだけキャンパスで授業を受けたいから
- できるだけ対面での授業を受けたいから。
- できるだけ本来の大学生活を経験できる対面授業を受けたいから。
- できるだけ友人を作り、会話したいから。今までの閉塞的な生活から脱したいから。
- とうぜん
- どんなに意識して平等にしようとしても評価に差が出るから
- なるべく同学年の人と交流したいから
- なんとなく。
- まだ一度もキャンパスで授業を受けたことがなく、経験してみたいから。
- みんなに会いたいからです。大学生らしい生活をしたいです。
- もうオンラインは辛いです この状況下傲慢ですが、精神が安定しない状態で、進振りをかけた評価をされること自体を好みません。

- より多くの人と交流することができる。スポ身などオンラインと対面では内容に差異のある科目がある。
- 一人で勉強に取り組むことに限界を感じ、同級生との語り合いの場が欲しいから
- 一人暮らしでオンライン受講のみでは、人と会話する感覚を忘れてしまうことが S セメで分かった。
- 一人暮らしで全てオンライン授業だと人との関わりが全くなくなるから。
- 演習を伴う言語学習は対面式の方がやりやすく、また大半の生徒は対面式を選ぶことが予想され、交流という面で対面式を選ぶことに意義があるから。
- 家だと授業に集中できない。
- 家だと勉強できなくて困っているから
- 学びの質が高いと思ったから
- 学校に行きたいから
- 学生同士の接点を持ち、クリエイティブであるため。
- 完全オンラインであった S セメスターでは、ほとんど誰とも会わずずっと家にいて何のために何してるのかわけわからなくなったから。ただただ虚無な 4 ヶ月が過ぎていったように感じたから。
- 基礎実験が一部対面で行われることになり、実際に手を動かして実験することが将来役に立つと思ったから。
- 個人的に、対面授業にこそ大学の価値があると思うから
- 語学やゼミなど双方向性の高い授業では、対面授業の方がストレスなく効率的に意思疎通できるから。
- 交友関係がオンラインだと十分にはできない為。
- 自分だけが蚊帳の外になるのは避けたいから。登校したい気持ちもある。
- 実家から時間はかかるが通えるし、クラスメイトとも会いたい。隔週ならいいかなという感じ
- 実験は参加したいから。第二外国語はオンラインでいい
- 実験は自分でやりたい クラスメイトに会いたい
- 実験や外国語、体育は対面で受けたい
- 実験等の科目で動画を見るだけだとあまり楽しくないので。運動不足であるため。クラスメイトとの交流を深めるため。
- 授業に対する集中は対面授業の方が高いことは明らかであり、またクラスの友人と会う機会が少しでも増やしたいから。
- 周りの人の多くがそうするから。
- 少しでも学友と対面で会いたいから、オンラインでのスポ身が嫌だから
- 新しい環境に自分を置きたいから
- 新しい人間関係を築きたいため
- 人との関わりが欲しいから。また、オンライン授業では授業に集中出来ないから。

- 人との交流が得られる
- 人ともっと直接会いたい
- 人と話したりしたいから
- 人に会いたい
- 人に会いたかったから
- 他の東大生と接したいから
- 他人との交流の機会が欲しい。実験についてはオンライン形態で十分な質の指導を享受できるとは思えない。
- 多くの人がそうだろうから
- 多くの人が対面授業を受けると考えるため
- 体を動かす機会が激減し、スポ身でそれを補えると考えました。また、語学についても発音が正しいのかよくわからない場合があります。
- 対面が許される状況の下、対面授業に参加しないと、渋そうだから。
- 対面の授業をなるべく多く受けたいから
- 対面の方がやる気が出ます
- 対面の方が友達や先生に会えて、学習効果も高く、楽しいと思ったから。オンライン授業は質が低く、集中できないから。
- 対面を受ける人がいる中オンライン受講では不十分だと感じたから
- 対面を選択する人が多い中、自分がオンラインを選択すれば人間関係において大きな遅れをとる心配があるから。
- 対面形式になるなら実際に対面で同級生との親睦を深めていきたいから。
- 対面授業とオンライン授業の併用が推奨されていることに加え、一度も大学での対面授業を経験していないため、感染症対策を十分に行った上で対面授業を受けたいと思ったから。
- 対面授業を受けてみたいから
- 対面授業を受けないことで何らかのデメリットを受けるリスクを恐れている為。
- 対面授業併用にすることで、生徒間の交流を期待できるから。
- 対面授業併用の授業でのオンライン受講がどのような形になるか分からないから
- 待ちに待った大学生活を家の中で完結させるわけにはいかないから。
- 大学での友人が欲しいから。オンラインの授業は集中しにくく、また体調も崩しやすかったから。
- 大学に行く主要な理由の一つは人脈を広げることだと思っており、そのためには対面で様々な人と会う必要があるため。
- 大学に行って、クラスメイトに会いたいから。
- 大学に通える距離にいる、大学に通って普通の授業を受けたい、オンラインに限界を感じる
- 大学のなんらかのコミュニティには参加できるのではないかと期待しているから
- 大学の友達と会いたいから

- 大学の友達を増やしたいから
- 大学生活で大切にしたいことの一つが人と関わることだから。
- 直接的な交流も大切だから
- 東京にいて、行かない理由がないから
- 東京にいるため
- 東京に住んでいるから
- 東京に来てからほとんど人と会っていないので、切実に同級生に会いたい。
あと特に実験はオンラインではやりたくないため。
- 東京の実家に住んでいるため、通える距離にあるから。また、オンライン授業での弊害（課題を相談しにくい、友人ができにくい、授業が学生を序列化することを目的として行われるなど）を痛感したため。
- 同クラと直接会いたい。友達をつくりたい。家から出たい。
- 特段行かない理由がないから
- 普通の「大学の授業」（つまり対面授業）を受けてみたいから。クラスメートや東大の人と会ってみたいから。
- 部屋に籠っていても気が滅入るため、できるだけ構内で生活したいから。対面授業がない日でもキャンパス内でオンライン授業を受けたい。
- 本来ならできていたようにキャンパスへ行って授業を受けたいから
- 本来の大学生活を少しでも送りたいから。対面だからこそ得られるものがあるから。
- 友人に会いたい。家では集中できない。
- 友人を作りたいから。家にいるとストレスが溜まるから。
- 友達がほとんどいないので、共に勉強、遊びを共有し合える友達をつくりたい
- 友達が欲しい。双方向の授業がしたい。
- 友達と会いたい
- 友達と会いたいから
- 友達をもっと作りたい 人脈が欲しい
- 友達を作りたいから。大学へ行きたいから。

[Q4 オンライン受講のみ]

- 6月ごろに帰省したが、冬以降もう一度上京した場合、再び祖父母も暮らす実家に帰省する目処が立たないため。
また、オンライン授業の質に大変満足しており、対面授業の意義をあまり感じないため。
無論、自宅に閉じこもった生活は精神衛生上良くないが、それは外部とのコンタクトが授業に限らず一切断たれているためであり、オンライン授業が対面授業かによるものではない、と考えた。

- オンラインであってもクラス内のコミュニケーションは十分とれ、また、往復 3 時間の通学をわざわざ選択する必要はないと判断したため。
- カラオケやクラスメイトとの懇親会などを行なっている東大生が多いと聞いています。発音演習の多い第二外国語で、仮にクラスターとなっても原因は特定可能と判断されても、私はこの時期は街中、特に渋谷と思われる、への外出の多い大学生との接触は避け、実家で安全に勉学に励みたい。
- 家族が 80 代を超える高齢であり、介護や見守りの点でオンラインで自宅から受講する方が自由が効くため
- 感染のおそれがあるから
- 金銭的な問題で東京の寮を解約してしまい、東京で暮らす家がないから。
- 新型コロナウイルスへの感染およびそれによる学習の遅れへの不安のため
- 対面講義の数が少なく、またオンライン受講者への配慮もなされているため感染のリスクを冒す必要はないと判断しました
- 対面授業が少ないため上京せず実家に残ることに決めたから。
- 大学がいくら感染対策をしても、登下校時に会う人たちから感染する恐れもある。井の頭線は渋谷、吉祥寺など人が密集するエリアも通るため不安がある
- 通学時間の電車が混むことで感染がひろがるかのうせいがあるから

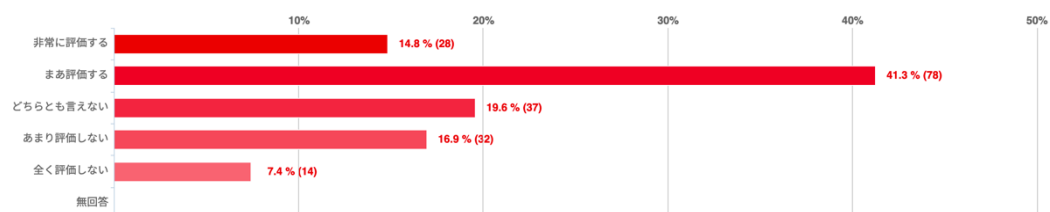
Q6 「A セメスター (A1・A2 ターム) の教養学部前期課程の授業形態について」に提示されている形態 (原則一部のクラス指定科目のみ対面授業) で開講することに関して、1 年生のクラス指定基礎科目等の対応についてみなさんがどのようにお考えか段階式でお聞かせください。

回答数 189

○概説

「非常に評価する」「まあ評価する」と答えた人が全体の 56.1%であったのに対し、「あまり評価しない」「全く評価しない」と答えた人は全体の 24.3%となった。評価すると回答している学生が多数派であるが、評価しない学生も全体の 4 分の 1 程度となるなど、割れる結果となった。

○グラフ



Q7 Q6 の回答の理由をなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：125

○回答

[Q6 非常に評価する]

- いまだ感染者数が増加している中、全科目を対面式にするのは感染のリスクを非常に高めることになる一方、実験や実技等を通して学ぶ科目はオンラインでは十分に学べないため、良い対応だと思ったから。
- クラスでの交流として非常に効果的なため。
- むしろコロナ関係なく、「対面の必要性がある科目のみ対面」というのは理想的であると思う。
- 一部だとしても対面授業を始めてくれるのは嬉しい。
- 完全オンラインの学校もあるのに、対面を取り入れてくれたから。
- 感染リスクとは無関係に、質の高いオンライン授業を展開してくれるため。
- 感染拡大を対策しながら可能な限り対面授業を実施しようとしているから
- 感染症対策を行った上で大学に通う機会を与えてくれているから。
- 今回の感染拡大の中で出来る最大限の配慮だと思う
- 人の密集を避けられ、かつオンラインのみが良いという人にもきちんと配慮されている形だったから。
- 他大では全てオンラインの大学が多いなかこのような決断をしたことはいち学生として非常にありがたいから。
- 多くの大学で早期に完全オンライン化を発表していた中で、実現可能な対面授業の方法を提案したことに価値がある。
- 対面授業を行うことが難しい状況の中、担当の先生方が尽力して下さったことがわかるから。
- 大学関係者一丸となって対応して下さった
- 両立をうまく図っている

[Q6 まあ評価する]

- オンラインだけでは不十分だと感じたから
- オンラインだと頭から痛くなりますから
- オンラインで出来ることはオンラインでやるのが合理的だと思うから。登校時間などを減らせて助かる。
- オンライン授業の利点と欠点を踏まえた上で、現状可能な最善の感染対策との妥協案の一つだと思っている。
- コロナの感染のことを考えると、対面を拡大することは厳しいとは思いますが。ただ、観光振興政策が国でなされるなら、アレサとかもう少し対面があってもいいとは思いますが。

- スポ身と基礎実験は対面の価値が高いと思うが、第二外国語の授業はオンラインで良かったと思う (S セメで円滑に進んでいた)
- なるべく多くの授業を対面にして欲しいから(例えば人数の少ない総合科目など)
- ほとんど不満はないが、基礎化学実験の、対面で行われる回がタームの後半に偏っているため、予定通り行われるか少し心配である。
- もう少し対面を増やして欲しい
- もっと対面を増やしてほしいが、対面を加えようとする試みは評価出来る。
- もともと人数の多い授業に関してはオンラインの方が学習効果が高いと思うので。ただ、少人数のゼミや主題科目、第三外国語等も加えてほしいと思いました。
- 科目の選定は妥当だと言えるが、できれば増やしてもらいたい。
- 隔週ではなく毎週にして欲しかったから。
- 隔週で対面授業が行われるため、登校日が複雑で分かりづらいから。
- 隔週ならあんまり負担にならないと思う
- 学校に行けるのは嬉しいから
- 完全オンラインの大学もある中で少しでも対面を取り入れるのは賢明。
- 感染リスクはあるが、対面授業の良さも極力取り入れていくことが重要だから
- 感染対策を行った上で対面授業を実施しようという形態はありがたい。しかし、キャンパスでオンライン授業を受けるのであれば普通に講義を受けても変わらないのではないかと感じてしまう。
- 結局僕のクラスは第二外国語は全部オンラインで実施するようだけでも、クラスの人と話す機会ができることはすごく良いと思うから。
- 後期もオンラインの大学がある中で、学生からの対面講義の意見を取り入れようという姿勢が見られたから。
- 語学等で対面授業ができるのは嬉しい
- 今までかなり厳しい対応をしていた中で、対面授業を取り入れるという決断自体は大きなものだと思うから。しかし、それで十分かと言われるとまだ授業の種類が少ないから。
- 最大限学生に配慮してもらえたと思うが、対面が月 6 コマはやはり少ないと思うから。
- 実験が対面指定を受けたのは高く評価するが、一部対面形式ではかえって移動が増えるので、せめてもう少し対面を増やしてもよかったのではと思う。
- 実験は対面に大賛成です。
- 実験は毎週と言われていたが、実際は隔週であること。一方で、対面授業の準備をしていただいたことはありがたいと感じる。
- 少しでも改善される試みがあること自体は嬉しいから。
- 少しでも対面授業にして頂けて非常に嬉しい。ただ、本音としてはもう少し対面授業を増やして欲しかった。(特に英語)
- 少ないが、2週に一度の登校という、ちょうど感染防止に効果のありそうな仕組みだから

- 状況を鑑みるに、この授業形態は大学側が学生に対して最大限の配慮をしてくれた結果だと考えるが、生徒間の交流がどうしても制限されてしまう現状に対して不満がないとは言えないため。
- 先述の通り、私は大学で人脈を広げることを重要視しているため、対面授業を強く望んでいる。そのため、対面授業を再開したことは評価しているが、一部授業のみでは不十分だと考えている。
- 前例のない状況下で対応が難しい中大きなトラブルなく授業を受けることができたから。
- 全部オンライン授業にするのは現実的ではない。こちらとしてもむやみに感染リスクを上げるような対面形式は避けたいと思っていたから。その反面、登校する日を固めてほしかったという希望もあった。かなり難しいお願いだとは思いますが……。
- 全面对面が理想ではあるが、現在の感染状況から一部対面となることは深く理解できるから。
- 妥当だと思うから
- 対面があるのは良いが、まだ少ないから
- 対面が欠かせない科目のみ対面で行っているが、こういった形でのオンライン、オフラインの併用は妥当だと思う。
- 対面にする3つの授業のチョイスがとてもいい
- 対面はすごく嬉しいけど、もっと増やして欲しいです。
- 対面授業が再開するということで、もっと多くの科目で対面授業化されると思っていたが、非常にごく一部で残念だ。だが、仕方ないのかなとも思う。
- 対面授業を含めた時点で、一定の評価ができる
- 対面導入はうれしいが対面授業の数がほとんどないため
- 大学は頑張ってはくれていると思う
- 第二外国語と実験、実技だけではあまりに少ないと思うから。
- 第二外国語はオンラインで良い。S セメスターで圧倒的にオンラインの方が効率的なことが実証されている。
- 特に身体運動などの実習の科目では対面式で実施しなければあまり意味がないなら。キャンパスに慣れクラスメイトなどと交流する機会は必要であると思うから。
- 特に対面でしたい授業に対面が導入されている。
- 併用の方針は非常に良いが、身体運動など「切実な必要性」が感じられない科目まで対面再開となっているから。
- 目下の状況を鑑みるに、易々と外出する気分になれない一方、全授業をオンラインで行うのは学生側として負担が大きい為、必要最小限でも対面を導入して貰えるのは有難い。

[Q6 どちらとも言えない]

- クラスによって初修外国語が対面式かオンラインかが分かれていること。同額の学費を払い同様の基準で成績評価をつけるなら、全体で方針を統一すべき。
- なんともいえない

- まだ受けていないのでよくわからない。
- もっと対面があっても大丈夫だと思ったから。
- もっと対面授業があってほしいから
- 英語二列 W などゼミ形式の授業や論文を書く授業がオンラインで行われるのが残念だから。
- 隔週はめんどろ。1日の中で大学で受ける授業とオンラインで受ける授業があるのは不便。
- 学生が対面授業を求める理由として「キャンパスライフ・課題の負担」が挙げられると思うが、前者に関しては特定の科目だけ対面にしたところで影響は少ないと思われるし、後者に関しても当該授業又は他の授業の課題量が減らなければ、通学の時間・肉体的コストと比較して、むしろマイナスになってしまうと考えられるから
- 国に忖度しているのが見え見え
- 実験や身体運動は仕方ないにしても第二外国語が対面でなくてもいいとおもう。さらに隔週にする必要もないとおもう。
- 実質、オンラインがほとんどなのは S セメとあまり変わらないから。大人数になりがちな総合科目が引き続きオンラインなのは納得できる。
- 小中高は 9 月からは毎日授業を行うところがほとんどで、コロナは第 5 類になる可能性が高い中、大学だけが対面を少なくしているのはおかしいと思う。こんなことを言うのは不謹慎かもしれないが、クラスター発生による知名度の低迷を恐れているのであれば、東大に関してはコロナ感染者が出たからと言って志望者が減るといった事態は起こらないと思う。
- 正直、よく分からない。
- 対面があるのは嬉しいが予想より少なかったため。
- 対面に踏み切ったと言えるほど、対面授業が多いわけではなく、自宅にこもったままであることに変わりはないから。
- 対面の機会を設けて頂いたことは評価したいが、週 1 回程度の対面授業を受けるためだけに上京しなければならない地方生にとってはやや不親切び感じたから。
- 対面式の授業をもう少し増やして欲しかった
- 対面授業が実施されるのはありがたいが、隔週でやる意味がわからない。大学以外の学校は全ての授業を対面でやっているのに大学だけができない理由はない。
- 対面授業を行う科目が少ないから。
- 対面授業再開は評価するが、1コマのためだけにその日登校するというのは・・・。
- 大変な状況の中で対面を始めたことには感謝するが、対面授業の頻度はかなり少ないと感じるから。
- 文系には地方から上京するまでのメリットがないため、オンライン授業を選択せざるを得ない

[Q6 あまり評価しない]

- なぜ大学だけこんなに制限されるのか分からない

- フェイスシールドなど対策をしてまで隔週でやるぐらいならオンラインでした方が負担が少ない。
- もっと対面の授業を増やして欲しかった
- 隔週であることが複雑さを増させているから
- 感染症対策を考えるなら活発な活動を伴う身体運動・健康科学実習や発話を伴う外国語二列を対面形式にて実施する理由がわからないため。特に健康科学実習は飛沫感染の危険性が高いと考える。
- 感染対策を徹底しつつ対面を再開したことは評価できる。一方で社会全体の再開状況を勘案すると対面授業数があまりにも少ない。キャンパス内で学生生活を送っていない新入生間でも文理で対面授業数に大きな待遇の差があり不公平である。
- 基礎実験を毎週対面にしたことや、スポ身や二外など、対面授業が特に重要な授業で対面授業を取り入れるとしたことは評価する。しかしながら、スポ身と二外を隔週で行う意義がよく分からない。授業の半分を対面で行うならば毎週対面で行なっても大差ないのではないか。
- 原則一部のクラス指定科目のみの対面授業となるが、それ以外の授業は大教室で行い、生徒の発言が少ない授業であるものが多いため、それらも対面で行うことが望まれるから。要するに、感染リスクの大きい授業を対面にするなら、感染リスクの小さい授業も対面にできるはずだということ。
- 実験以外はオンラインでいいから。
- 社会がほとんど通常通りの生活に戻っているのに、この上大学の対面授業が一部のみ、しかも隔週という頻度なのが納得し難いから。この低頻度だと定期を買うのも迷うのでその意味でも困っている。
- 初期の発表から、対面授業の回数がかなり減っているから。特に実験はほとんどオンラインになってしまっていて、正直対面にする価値を感じない。
- 生徒数を半分以下に抑えたいとかのたまいますが、ほとんどの授業がオンラインなために隔週にする必要がないと思います。
- 全て対面にして欲しい
- 他の科目も対面授業をしてほしい
- 対面が導入されることになったことは評価するが、あまりに少なすぎるから。基礎実験は全て対面で行うべきだし、その他の教科も可能な限り対面で行ってほしい。
- 対面で開講される授業が少なすぎる。
- 対面の回数が暫定版→正式版発表で減少した
- 対面を実施する授業が非常に少なく、実質対面なしとほとんど変わらない。コロナ禍の中、学生が生活を送る上での負担は増大しており、それに見合った対面授業実施のメリットは殆ど感じられない。
- 対面講義が少ないからです
- 対面込みだと、一週間おきにルーティーンが変わってしまい、非常に混乱して疲れそう。

- 対面式とオンライン形式の授業が同じ日に混在すると、受けられない授業が発生すると思うから。
- 対面授業が少なく、学内での人との関わりが期待するほどは得られないと思うから
- 対面授業はあるといっても、ほとんどオンライン授業だから
- 第二外国語に限らず外国語の授業（特に FLOW などスピーキングの要素を含むもの）、スポ身などの実習を含む授業では全面的に対面形式にすることが教育的な観点からはベストだと思う。ただ、キャンパスに行く人数を削減する必要があることを考えると、現時点で教養学部が発表している方針は概ね合理的と考えている。
- 二外はオンラインで良いから。
- 別にオンラインでもよかった
- 友人を作る機会が与えられたとはいえ with コロナを意識しているとなかなか難しい

[Q6 全く評価しない]

- 2 週間に 2, 3 回しか通えないのは少なすぎる。歓楽街は毎日営業しているのに何故？日本で未だにこんなことをしているのは大学しかない。
- オンラインでできるものをわざわざ学活に行き行ってまだやる必要性がわからない。オンラインと対面を併用すると、必然的にオンデマンドの授業が増え、スケジュールが狂う。（履修を組む意味がなくなるのでは）
- まず、何も聞かされていない。情報提供の少なさは不安だが、オンライン申請した場合のクラス指定もいつ教えてくれるのか、不安だ。
- もっと柔軟な選択が可能になるようにすべき 一つには、一度対面を選んだらずっと対面という形式が問題 授業の録画をする、もしくは休んだ部分の他の授業をうけられるようにするなどするのが良いと思う 二つには、どれか一つ対面形式にしたら残りの対面可能な授業すべてを対面にしなければいけないというのが問題 そこもやはり自由な選択に委ねるべき
- 完全対面授業をすべきである。学校はクラスターが発生し責任を負うことを逃れているだけである。
- 小中学生は普通に対面に戻っていて、しっかり対策すれば問題なく対面授業もできるはずなのに、大学だけまるで政府の言いなりになっているかのように、弱気だから。単に知識を教えるにはオンラインでもいいのかもしれないが、交友関係を深めること、周りに仲間がいて勉強することの価値を軽視しているのが許せない。
- 全て対面でやるべき
- 全国の小中高が授業を通常の形に戻している中、大学だけがオンラインを続けるのはおかしいと思うから。受講人数の多い総合科目はまだしも初修外国語や英語は毎週対面授業をしてほしい。
- 対面授業は週に 2 時間程度でも地方生は上京しなければならないから。
- 適切な感染予防対策を講じれば、ほとんど対面授業にすることができるのに、1 割程度しか対面授業していないから。

- 負担が無駄に増えるだけ

Q8 現時点で検討されているクラス指定基礎科目等の*1A セメスターの授業形態について、こうすればよい、こうして欲しい、ここは良くない等のご意見をなるべく詳しくお聞かせください。*通常の総合科目、主題科目等は後ほどお伺いします。

回答数：78

○回答

[Q6 とても評価する]

- オンラインのみとなっている科目も一回位は対面で集まる機会があってもいいと思う
- オンラインを選択した人も同じタイミングで同じ先生がやれたらよい。
- とくになし
- なし
- もっと多くの科目で対面授業を受けたい！
- 語学はオンライン授業を受けたい。発音練習やディスカッションなどがある語学の授業では、飛沫感染のリスクも他の講義に比べて高いと思われる。これらは対面でなくても、zoom のブレイクアウトルームなどで十分に代用可能であり、わざわざ対面授業にする必要は無い。
- 対面型の授業回数少なく、完全オンラインとあまり変わらないと思う。
- 特にありません。
- 特になし。

[Q6 まあ評価する]

- ALESS、FLOW、グループワークを含む科目も対面の価値があるかもしれない。
- アレサとフローは対面、一方でスペイン語一列はオンラインでも良い。
- オンラインも駒場で受けることになり、週 3 で登校するならもっと対面増やして欲しい
- オンライン授業と対面授業の実施日を別々にして欲しかった。正直、対面授業を受ける日にオンライン授業を大学で受けるのは面倒くさいし、感染予防の面でも大学に行く日が少ない方がいいと思う。とても骨の折れる仕事だとは思うが、何とか調整して一週間の内特定の日にオンライン授業のある授業をまとめて開講することはできなかったのだろうか。
- もう少し対面を増やして良いと思う
- もっと対面の回数を増やしてほしい
- 一部でも対面を取り入れる姿勢は有り難いし、今後もその方向で準備を進めていただきたい。一方で、現段階の方針によるとクラス単位の交流の場を設けるためにも第二外国語一列は対面方式になるようだが、私のように TLP コースを受講しているものは、通常の方式に倣えば非 TLP 生のクラスメイトとは別の授業であるため会う機会は実質ないと思われる。その辺りのことについて

て、対処していただけることは難しいと思うが、念のためそういった認識を持っていただけると助かる。

- 英語全般 (理由)1 つの授業の人数が少ない。オンラインでのディスカッションには限界がある。
- 英語中級なども対面にできそう
- 課題が多すぎるのでなくしてほしい
- 隔週でなくて毎週が良い
- 隔週での対面授業の実施はややこしい。毎週対面授業を行なって欲しい。
- 隔週ではなく毎週対面授業にして欲しい。
- 基礎実験についてはまだ対面にするのは不適切と感じる。他は良い。
- 語学にフェイスシールドが必要なのであれば支給してほしい。
- 語学はできるなら毎週行きたい。
- 構内の人数を抑えなければならないので仕方ないところもあるが、せめて隔週ではなく毎週対面で授業を受けたい。
- 今は特に浮かびません。
- 自宅の Wi-Fi の通信状況がたまに悪くなってしまうので全授業録画を残して欲しいです。
- 人数の多くない科目は対面してほしい
- 数学など、もうすこし増やして欲しいです！それと偶奇で全く合わない人が半数いるのも少し寂しいです。
- 全部毎回対面でいいのでは？
- 他の人数が少ない科目も実施したり、人数が多い科目でも一部の人だけ対面で他はオンラインといった形もできると思う。
- 対面で実施される科目は、同じ曜日にしてほしい。
- 対面式であってもオンライン授業を併用する場合、録画し後から見れるようにしてほしい。
- 通勤ラッシュの時間帯に通学時間が被るような時間割編成はやめて頂きたい。
- 日をまとめるか、他の授業との時間の差をつけるなど、通いやすさも大事ではないか
- 毎週対面にして欲しい

[Q6 どちらとも言えない]

- 3 コマある対面授業を一つの曜日にまとめて欲しかった
- ALESS など対面で良いと思う。
- クラス指定基礎科目は対面でもよいと思った
- スポ身の対面数がクラスによって異なるのは仕方がないとはいえ公平とは言えないと感じた。
- どうせ対面にするなら毎週末にすればいいと思う
- ない
- 机の間隔や換気に気をつけた上で、すべて対面授業にすればよいと思う。

- 出来ればもっと対面を増やして欲しい。前期受けて思ったことは、オンラインだと発音の際の口の形がわからない。
- 全体的に対面授業を増やして欲しい。
- 全部希望者は登校にしてほしい
- 対面授業の頻度を隔週から毎週にして欲しい
- 対面授業を実施し、その映像をオンラインで流す。
- 特になし。
- 二外の為のフェイスシールドとスポ身の為の着替えや靴、また前後の授業の為のパソコンなど荷物がかかり嵩張るのが良くないと思う(特段対処法が無さそうなのでやむを得ないと思うが)

[Q6 あまり評価しない]

- スポ身は隔週ではなく毎週の方が望ましい。科目の性質上、オンラインでの授業は無理であり、実際 S セメスターの授業は無意味だったと考えている（教員のやり方が悪いとかいうことではなく、原理的に無理という意味で）。
- なんかオンラインになるのか対面になるのか曖昧に感じられた。仕方ないと思うものの、はっきりしている方が好ましかった。
- もっと対面の授業を増やして欲しいです。
- 可能な限り対面で行ってほしい。最低でも基礎実験は全て対面で行ってほしい。
- 隔週にしてほしい。そうすれば半分に抑えられる。
- 基礎科目は対面授業を再開してほしい
- 最低でも身体運動・健康科学実習については、隔週対面式でなくオンライン実施が妥当だと考える。
- 実験は毎回対面
- 実験以外はオンラインでいい。
- 対面を毎週にすればよい
- 対面形式の授業は同じ日にまとめて欲しい。
- 対面授業をやるのであれば、その授業は毎週対面にして欲しい。第二外国語で、生徒は隔週で対面だが先生がオンラインの場合、学校に来る意味があまり感じられない。
- 同上。
- 特にありません
- 特になし。
- 難しいのは分かっているが、やはり隔週よりも毎週対面にして欲しい。1A はずっとこの形態、と早々に決めてしまうのではなく、社会状況に合わせてその都度授業形態を見直して欲しい。
- 二外の対面は不要だと思う。
- 二外はオンラインにするべき。

- 文理間で対面授業数に大きな差があることは、理系の実験が対面でないとできないことは理解できるものの、それでも疑問である。学習効果を考えると ALESA などの英語科目がオンラインなのは良くない。

[Q6 全く評価しない]

- 1S セメスター同様全てオンラインで
- オンライン申請している人たちはクラスメイトから引き離され、その後の人間関係の構築がかなり困難だと感じる。たとえオンライン授業でも、渋谷などでクラスメイトと会ってる人たちはいるし、自粛が我慢できない人は外出すればいいし、自粛できる人たちは、このままオンラインにしてほしい。
- スポ身のみ対面にし、2 外は対面にする必要はない 現状合計 3 日キャンパスに行かされることとなるが、ほとんどの人は総合科目等の授業をオンラインの形式だが、キャンパス内でうけることとなり、オンラインの意味がなくなる。
- もっと柔軟な選択が可能になるようにすべき 一つには、一度対面を選んだらずっと対面という形式が問題 授業の録画をする、もしくは休んだ部分の他の授業をうけられるようにするなどするのが良いと思う 二つには、どれか一つ対面形式にしたら残りの対面可能な授業すべてを対面にしなければいけないというのが問題 そこもやはり自由な選択に委ねるべき
- 現在隔週の対面になっている授業は毎週対面にして欲しい。
- 初修外国語と英語は受講人数も少ないため毎週対面授業を実施するべきだと思う。
- 全て対面授業にする
- 他の教育機関は大体対面でやっている。大学という人との出会いに溢れる場においてオンラインでこのまま続けるのはおかしい。

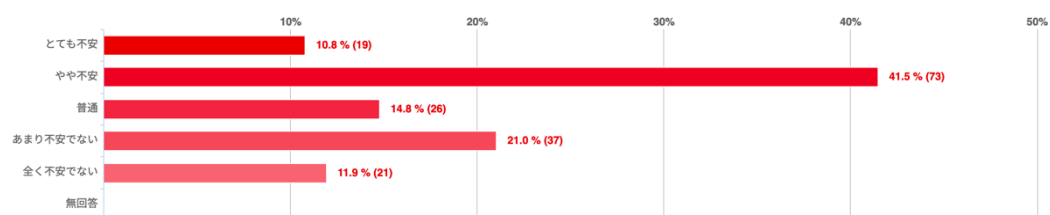
Q9 現時点で対面授業の併用を予定していると回答された方にお尋ねします。対面授業とオンライン授業を併用することについて不安を感じますか。

回答数：176

○概説

「あまり不安でない」「全く不安でない」と回答した人が全体の 33.0%を占めた一方、これを上回る 52.3%の学生が「とても不安」「やや不安」と回答した。併用することに何かしらの不安を覚えている学生が多いことが窺える。

○グラフ



Q10 現時点で対面授業の併用を予定していると回答された方にお尋ねします。対面授業とオンライン授業を併用することについて、こうすればよい、こうして欲しい、ここは良くない等のご意見をなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：73

○回答

[Q9 とても不安]

- オンラインの授業とオフラインの授業が続いているとき。どうすればいいか分からない
- キャンパスでオンライン授業を受ける設備を充実させて欲しい（充電用コンセントなど）
- より多くの情報を発信する
- 結局キャンパス内で残りのオンライン授業を受けることになるのでただ無駄なだけ。学内 WI-FI がまともに機能する場所は現段階で限られているので、そこでクラスタが発生しかねない。
- 切り替えの度に、帰宅を繰り返すのかという点
- 全て対面にして欲しい
- 対面→オンライン→対面となる日程が存在するので、最初の対面の授業教室でオンライン授業を受けられないのか。
- 対面とオンラインで日をまとめてほしい。個人的な理由だが、イヤホンヘッドホンが非常に苦手であるため、家の外でオンライン授業を受けることに抵抗を感じる。
- 対面の授業が全て同じ曜日になるようにして欲しかった。週3日にバラけているのでつらいし、前後の授業があることを考えると、キャンパス滞在時間がそれだけで伸びる。
- 対面授業を実施し、その映像をオンラインで流す。
- 発言をする授業で他人の声が入らないかが不安です。

[Q9 やや不安]

- オンライン授業では課題の量が多く大変だったが、A セメスタではそれに通学時間が加わり、その分余裕が無くなるのが予想されるので、課題の量に関しては引続き検討をお願いしたい。
- オンライン授業と、対面授業がある日に、大学内でオンライン授業を受けるにはどうすればよいかを詳しく知りたい。
- オンライン授業もキャンパスで受けられる態勢を確保し、キャンパスである程度自由に過ごせる環境を用意して欲しい。
- オンライン授業を受ける場所とインターネット環境の整備をきちんとしてほしい
- キャンパス内でオンライン授業を受ける際の方法などが不明瞭なので明確にしていきたい。
- キャンパス内でオンライン授業を受ける必要があるのが、1S に比べて不安。

- どうしようもないことではありますが、対面授業がある時限に隣接してオンライン授業がある場合、大学校内でオンライン授業を受けることになってしまう点が良くないと思います。
- どこでオンライン受けるのかが不安(通信量)
- なるべく対面授業を同じ日に固めてほしい。
- もっと柔軟な選択が可能になるようにすべき 一つには、一度対面を選んだらずっと対面という形式が問題 授業の録画をする、もしくは休んだ部分の他の授業をうけられるようにするなどするのが良いと思う 二つには、どれか一つ対面形式にしたら残りの対面可能な授業すべてを対面にしなければいけないというのが問題 そこもやはり自由な選択に委ねるべき
- 一日一つか二つの対面授業のためにわざわざ学校に行くことがそのうち面倒になって授業そのものをサボりがちになってしまう不安がある。
- 一部オンラインでも、結局その前から大学に行くことになる人が多いと思うので、それならもっと増やしてほしいなと思いました。
- 隔週にする
- 学校でオンライン講義を受けるのなら対面で講義を受けることと同じではないのか。
- 学校でオンライン授業を受講する場合、自分のパソコンのバッテリー切れが怖いので、電源付きの教室を使いたいのだが、おそらく多くの学生がそう考えると思われるので、争奪戦になるのではと不安である。
- 学内インターネット環境や充電設備等を充実させて欲しい。
- 教室でオンライン授業を受けるなら対面で良いと思う
- 結局大学行ってオンラインで授業を受けることに違和感を覚える
- 校舎でもオンライン授業を受けれるようにしてほしい
- 校舎内の Wi-Fi 環境を整えて欲しい。既存の utokyo Wi-Fi は動画や音声の受信には弱すぎる。
- 実験等の対面でする方が良いものはいいが、語学を対面でする必要性は負担の割に薄いと思う。
- 対面とオンラインが交互にある日は面倒
- 対面形式の授業は同じ日にまとめて欲しい。
- 対面授業とオンライン授業を連続受講するとその間に大学と自宅を行き来せねばならず、大変なので、そうならないように時間割を上手く組むか、そういう場合の大学構内でのオンライン授業の受講を認めてほしい。
- 対面授業のあとにオンライン授業があるなら、結局大学の構内でオンライン授業を受けるほかに、対面実施とあまり変わらないのではないか。
- 対面授業の一つ前のコマがオンラインだった場合、 その一つ前のコマも登校して受ける必要がある。これはめんどくさい。
- 対面授業の前後にオンライン授業が入る場合、キャンパスの指定された場所での受講となると思うが、zoom 越しのディスカッション授業などもある中で他の授業受講者と互いに迷惑とならないかが不安である。
- 対面授業の前後のコマのオンライン授業をキャンパスで受けれるように回線を整えてほしい。

- 対面授業の直後にオンライン授業が入る可能性も十分あるため、できるだけオンライン授業を家に帰らずとも構内で受けられるようにするなど環境設備に取り組んでいただきたい。
- 対面授業の日とオンラインの日を分けて欲しい。
- 対面授業の日とオンライン授業があるのが少し不安です。難しいとは思いますが、対面を一日にするなどして欲しかったです。
- 大学に通えないことによる不利がないようにすべきだと思う。
- 大学の施設を使ったことがないので、wifi や充電や教室などの事情が全くわからない。具体的な意見を持つことすらできない段階にある。
- 同じ日に対面授業とオンライン授業がある場合、どこでオンライン授業を受ければ良いのかなどの情報をなるべく早めに通達して欲しい。
- 特にない
- 約 400 人以上の授業のみ、オンラインでよいと思う。

[Q9 普通]

- 1 日に対面授業とオンライン授業混在するのではなく、日ごとに対面かオンラインのどちらかにわかれたほうが良いと思う
- なるべく登校日を揃えてほしかった。1つの対面授業を受けるために、その日の他の授業を構内でオンラインで受けるという滑稽な状況がある。
- 学生全員がオンライン環境に不安なく授業を受けられる体制を作って欲しい。
- 現時点では併用というよりほぼ全面オンラインと言って差し支えない状況だと言え、学習効果の面からも、より対面を増やすべきだ。大学でオンライン授業を受講する環境整備もお願いしたい。
- 週に 2、3 回ほどしか行かないとして、通学定期のメリットを利用しきれない気がする。また、登校日の朝に正門の前で検温などで列ができるならそれもいやです。
- 対面とオンライン両方の授業がある曜日を作らないでほしい。そのようなありかたは、参加が容易というオンライン授業の利点を損ねるから。
- 対面を取り入れることには賛成だが、対面授業とオンライン授業を同じ日に受ける方法がよくわからない。
- 対面授業の後にオンライン授業をやるくらいなら、全部対面にすればいいと思う
- 登校日に、対面授業意外のオンライン授業を受けられる場所が確保されているのか不安です
- 特にありません。

[Q9 あまり不安でない]

- 90 分授業になったのはとても良いと思う
- キャンパスでオンライン授業が確実に受けられるようにしてほしい。(wifi 整備などをいま早急に進めていることは知っているが)

- キャンパス内の換気を徹底してほしい。
- せめて対面が予定される基礎科目は毎週対面で行ってほしい。
- できるだけ対面授業を多めにしてほしいと思う
- もう少しオンラインでない授業を増やしてほしい。少人数の英語一列、英語中級など。
- 教員がオンラインなのに、生徒が対面なのは意味がよくわからない。
- 少人数のゼミ型の授業、つまり FLOW や ALESA などは対面にして欲しかった。
- 対面を増やしてほしい
- 対面授業の時間割がばらけると通学の負担が目立ってしまうので、なるべく対面授業を同じ日にまとめやすくしてほしい。
- 対面授業を実施する意味はあまり感じられない。もっと対面授業の割合を増やすか或いは全てオンラインで良いと思う。
- 大学でのオンライン授業が受けられるようにしてほしい。

[Q9 全く不安でない]

- オンラインと併用することで電車が混む時間に学生が通学することを避けられるようにすればよいと思う
- 少人数の授業であれば対面授業を増やして欲しい とくに主題科目やゼミなど
- 対面授業をできる限り特定の曜日に集中させて欲しかった。
- 大人数の講義をオンラインで行うのは良いと思うが、教授とのやりとりが重要になる FLOW や ALESA のほうが二外やスポ身よりも対面にする優先順位が高くあるべきではないかと思った。

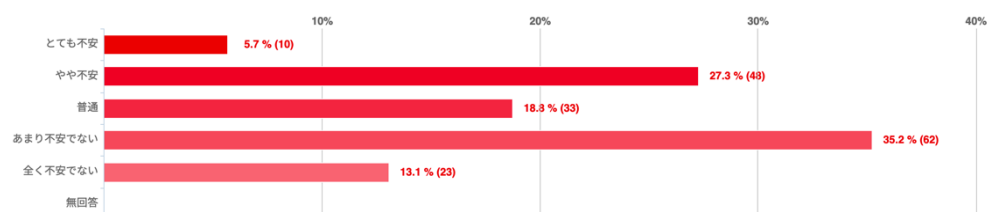
Q11 現時点で対面授業の併用を希望されるとご回答された方にお尋ねします。対面授業を受講するに際し、新型コロナウイルス感染症についてどれほど不安がありますか。

回答数：176

○概説

「あまり不安でない」「不安でない」と回答した学生が半分近くとなったものの、「とても不安」「やや不安」と回答した学生も3割を超え、回答が割れる結果となった。

○グラフ



Q12 現時点で対面授業の併用を予定していると回答された方にお尋ねします。Q11のように答えた理由、その他対面授業を通した学内での同ウイルスの感染拡大について、ご意見があればなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：60

○回答

[Q11 とても不安]

- 80代の祖母と同居しているため、大人数が集まる場所に行くのは気が引ける。
- 後遺症の有無が判明していない上、東京は非常に新型コロナウイルスに感染する可能性が高い。
- 食堂などでの感染予防策は十分に講じられているのか不安がある。
- 先日、健康診断に行ったとき、健康診断後多くの学生がベンチに座って結構な声で話していた。対面授業が始まると、キャンパス内も今よりも騒がしくなるので、会話の声もより大きくなると思う。満員電車などの感染リスクについてはさんざん言われているが、多くの人が一堂に会して、大声を上げるような場というのは学位なのではないか。そう考えると、日本で（医療関係の場所を除き）最も感染リスクの高い場所になるのではないかという懸念がある。
- 二外は発表の時だけ対面にすれば良いのではないのでしょうか。
- 本来4月に味わうはずであった新しい生活が始まることへの高揚感を多くの一年生は今から感じるようになるため、羽目を外した行動を取る人がいて、学内での感染拡大が広がってしまうことが心配である。

[Q11 やや不安]

- Cocoaの利用は強制されたくない。
- これから冬を迎えること、サークル等の活動が再開していること、授業後の集まり、対面授業によってクラスの親睦が深まり学外で集まる恐れがあること等々
- サークル活動等で他大の生徒が多く来校することがあるかどうか不安。そうなると諸規則は東大の内部で完結する問題ではなくなる。
- すでに再開している小中高の学校や会社でもクラスターが発生していることを考えると、大学でクラスターが発生しても全く不思議ではないし、悪いこととは思わない(もちろん十分な対策をとった上で)。そのため、(規模や状況にも依るが)クラスターの発生したからといって、すぐに全面オンラインに切り替えるなど、過剰な反応をする必要は無いと考える。対面でしか得られない学びも多くあるので、できるだけ対面授業を提供して欲しい。
- リスクは下げられると思うが、行動範囲の広い大学生が集まれば常に感染の可能性はあると思うから。

- 感染動向は予測不可能なので柔軟に選択ができるようにしたほうが良い
- 自分がかかる分には自己責任だと思し、そのリスクを負ってでも対面授業を受けたいと思うが、家族にうつした場合が怖いから。
- 十分な対策のもとでも、生徒や教員の接触は起こりうるため、必ずしも感染しない訳ではないから。
- 新型コロナウイルスに関する知見はかなり蓄積されてきている。換気の徹底、必要な時のマスクの着用、手洗い、顔を触らないといった個人の努力で相当程度感染リスクは低減できるはずである。そのため、自分が感染する不安はさほどない。ただ、対面授業を再開すると、飲み会などに参加する学生も出てくるだろうから、自分以外の学生に感染が広まることを危惧している。
- 人それぞれ意識にばらつきがあり、自分自身は感染対策に注意していても、衛生観念が希薄な人が感染するかもしれないから。
- 人と会うからにはウイルスをもらうことは完全には防げないと思うから。
- 対面授業によって放課後などに集まるのが容易になるのでクラスター感染を引き起こす可能性があり、それは授業における対策などでは防げないから。
- 単純に対人接触が増加するため。
- 特にない。
- 脳への影響や後遺症の話聞いたから 会社や小中高などの他の学校も再開しているのだから、大学で感染が発生しても仕方ない

[Q11 普通]

- ある程度リスクを許容する時代になったと感じている。
- マスク・手洗い・消毒・粘膜に触れないなどのことに気を付ければ、キャンパスで交流する際の感染リスクはある程度抑えることができると思っているから。
- マスクと対策がしっかりなされている。どんなに対策しても感染のリスクは残るから。
- 家に籠っていたところで家族が外に出ていたりしたら感染のリスクはそう変わらないと思うから。さらにやはり 1 人だけが外に出る、出ないということよりも三密を避ける、高齢の方とは会わないなどの感染症対策を心掛けることの方が本質的であると思うから。
- 外出の頻度が増えているため
- 現在の駒場の入構制限やバイト先(接客業)の状況を鑑みると、対策は十分だと思う
- 自分では手洗い・うがい・消毒・検温などできる限りの対策は行っているし、用事で満員電車に乗ることも多く、満員電車より人口密度の少ないであろうキャンパス内での感染については、不安を全く感じない訳ではないが、過剰に意識はしていないから。
- 十分な感染防止対策を検討していただいているようで有り難い。ウイルス感染の僅かなリスクのために学習の場の確保を犠牲にしてはならないと思う。
- 世間を恐れて、ただやってるだけのほとんど無意味な行動を大学機関が行うのはいかがなものか。

- 対面授業を実施するメリットを考えると、受け入れられるリスクだと思う。
- 日頃から気をつけていて、キャンパス内でも対策がしっかりしているため。

[Q11 あまり不安でない]

- コロナウィルスは大学生への危険度は比較的安く、学生たちも外に普通に出て活動を再開しているから。
- どのような場所でもリスクがあるのではないと思う。
- バイトで対面接客を既に経験済みであるため、今更大学で対面授業が実施されることに不安はない。
- マスク着用、換気の徹底、間を開けて座るなど気をつければ不安はない。
- やることやってるひとしかかからない。
- 各自が対策意識を持てば、感染の拡大は防げると思うため。
- 構内でも対策を徹底すれば問題ないし、小中高はすでに見たところ普段通りの生活を送っている人たちも見受けられる、それなのに大学だけ禁止はおかしい
- 高校などでは部活も授業も普通に行っているようで、大学だけこんなに慎重なのが少しもどかしいです。でも通学者が一気に増えたりする、というのは確かに不安なのかなとも思います。
- 今までの報道を見た限りでは、きちんと気をつければ感染の可能性をかなり下げられるものと感じているから。
- 若者は重症化しづらいと聞くと、家族にも高齢者などはいないため。
- 小学校、中学校、高校も、リスクを承知の上で対面授業を行なっている。大学だけ始まらないのはおかしいと思う。日本は、海外と比べて感染する可能性も低いと、ある程度はリスクを承知で対面授業をするしかないと思う。
- 小中高校とも全て対面で授業を行っているが、感染はそれほど拡大していないし、クラスターが発生してもそれほど話題にされていない。大学はクラスターが発生し非難されることを恐れているのかもしれないが、正直に言ってビビリである。
- 対面が楽しみで、正直コロナへの恐怖が薄れている。
- 対面を取り入れた結果ある程度感染者が出るのは仕方がない。
- 対面授業をしている小中高等学校でのクラスターは聞かないので、(感染症に対する理解の少ない小学生等でもクラスターなどのニュースを聞かない)学校生活による感染リスクは低いと思うから。
- 大学は様々なところから多くの人間が集まるので危険、と言われているが、それは他の公共空間（通勤・通学等に使われる電車内や駅など）についても同様であり、むしろ感染対策が為されている大学の方がよほど安全ではないかと考えるから。
- 大声をあげて叫ぶことはほとんどないであろうし、本学の生徒ならば適切な感染対策を講じることに協力すると思われるから。

- 適切な対応をした上で感染者が出てしまうのは仕方がないと思う。最近は新規感染者数も増加傾向にはないので、換気など三密に気を使えばもう少し対面授業数を増やしても良いと思う。
- 普通に生活を送る上で市中感染も同様のリスクがあるため。

[Q11 全く不安でない]

- ウイルスは無くならないし、ワクチンも有効かどうかわからない状況で、いつまでも臆病になっている必要はない。個々人がきちんと対策すれば問題ないと感じる
- コロナウイルスに感染したところで死ぬ確率は極めて低いから
- コロナはただの風邪だと思ってしまう 高リスクの人だけ自粛すれば良いと思う
- こんなことを言うのは不謹慎かもしれないが、クラスター発生による知名度の低迷を恐れているのであれば、東大に関してはコロナ感染者が出たからと言って志望者が減るという事態は起こらないと思う。
- マスク、手洗いうがい等対策を講じれば風邪同様に防げるから
- 学校に行かなくても、いつも色々なところに遊びに行っているから！
- 新型コロナウイルスは免疫力が低くない限り重症化しないため。
- 大学よりも感染拡大リスクが大きいであろう場所はいくらかでもあるが、規制は解除されつつある
- 大学生以外の学校や会社では通常の形態の授業、仕事が再開しつつあるのに大袈裟な感染拡大は起きておらず、それならば大学でも同様に感染リスクはそう大きくはない。

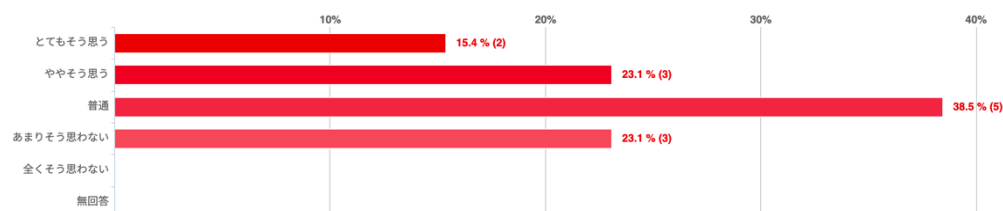
Q13 現時点でオンライン授業のみの受講を予定していると回答された方にお尋ねします。オンライン授業のみでの受講について、十分に配慮されていると感じますか。

回答数：13

○概説

「やや思わない」と回答した人がおよそ4分の1にあたる3人いたが、比較的配慮されているとの回答も少なくなかった。

○グラフ



Q14 現時点でオンライン授業のみの受講を考えているとご回答された方にお尋ねします。Q13のように答えた理由や、その他オンライン授業のみの受講について、不安に思うこと、こうして欲しいと思うことなどがありましたらなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：9

○回答

[Q13 とてもそう思う]

- オンライン授業のみを受講する選択肢を残していただけたこと、また、その中でも対面授業参加者と同じ授業（一部例外はあるが）に参加することができることなど、ありがたく思う。

[Q13 ややそう思う]

- オンライン授業を選択できる余地があるだけ、配慮されていると思います
- 対応などに差が出るかどうか気になる

[Q13 普通]

- 一部のオンライン組が孤立するのが非常に不安だ。人間関係のために一部対面を取り入れたのかもしれないが、一方でほとんど構築不能になる人もいることも知っておいていただきたい。
- 成績評価が不利にならないことを祈っています。
- 全面的に授業をオンデマンド化をしてもらえると嬉しい

[Q13 あまりそう思わない]

- Sセメから変わった部分を感じられない
- オンライン組と対面組とで、それぞれのやるべき作業（授業準備など）の指示が明確に出し分けられていないように感じるから
- 授業中に自分がどのように振る舞えばいいか分からない。友人関係に出遅れるのが怖い。オンライン受講者向けへの連絡が少なく、概要が把握できていない。マイノリティであるため、同じ境遇の人と意見や対応を共有できない。

Q15 学部発表の対面授業時の感染症対策について何かご意見があればお聞かせください。

回答数：24

○回答

- ・マスク
- ・手などの消毒
- ・換気（最大限）
- ・ドアノブ等、複数人が触りやすいものを初めから排する（→ドアを開けっ放しにしておく等）
- COCOA を強制するのはやめてほしい。
- このマニュアルを皆が守れるならいいと思う。だんだん意識が緩まないか少し不安。
- ない
- ない
- フェイスシールドなどは大学側で用意して欲しい。
- フェイスシールドの購入など、学生側が自分で用意すべきことは何なのかを早く明確にしてほしい。
- まず長い文章をちゃんと読む学生が少ないと思う。 不要な会話・発声は避ける、というのは言い過ぎかと思う。
- 感情に訴えかけるものじゃなくて理屈に基づいて発表してほしい
- 感染症に関するビデオが配信されたことしか知らないの、評価できない。
- 感染対策が非常にしっかりしていると思いました。
- 期待することはない
- 合理的であると思う。ただ、この指針を守らない学生が出てくる可能性があると考えている。
- 私はオンライン授業のみの申請をしている者だが、マスクをしての授業は十分に集中力が確保されないのではないか、と心配している。
- 社会的距離を保ってればよい
- 授業中はそこまで感染リスクが高いとは思わないので、特にない。
- 十分に考えられていると思う。
- 先程リンクを押したら回答を最初からやり直す羽目になった
- 適切だと思います。
- 適切だと思う
- 電車通学の場合、どれだけ学内で気を配っていても大人数との接触は避けられないのではないかと思います。
- 特にありません
- 特にありません。

- 特定教員に感染症罹患危険性が集中することについて言及されていたが、非常に問題である。

【1A セメスターの総合科目・持ち出し専門科目等の開講形態について】

(説明)

[7月29日の発表](#)などによれば、1年生の一部のクラス指定科目と[ごく一部の科目](#)を除いてほぼ全てオンラインで開講することになります。

また、本郷にある後期課程の持ち出し専門科目は、駒場では開講せず、本郷開講ないしオンライン開講予定となっています（ソースは[こちら](#)）。

参考として、後期課程のSセメスターを含めた授業形態を調査し[こちら](#)にまとめてましたのでぜひご参照ください。

ついでに、[総合科目・持ち出し専門科目等について](#)（1年生のクラス指定基礎科目等以外の授業について）みなさんがどのような対応を希望されているのか、学生として率直なご意見をお伺いしたいと考えています。

ご回答をよろしくお願いいたします。

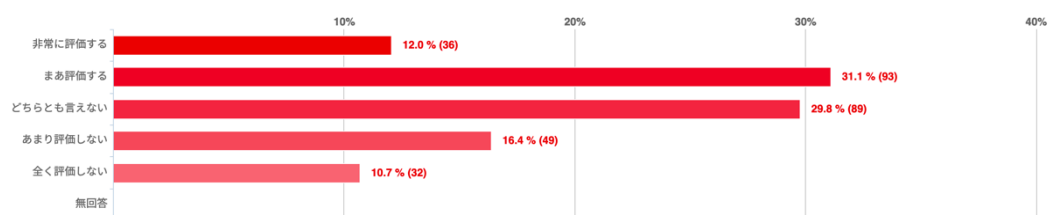
Q16 「A セメスター (A1・A2 ターム) の教養学部前期課程の授業形態について」に提示されている形態（原則一部のクラス指定科目のみ対面授業）で開講することに関して、1 年生のクラス指定基礎科目等以外についてみなさんがどのようにお考えか段階式でお聞かせください。

回答数：299

○概説

「非常に評価する」「まあ評価する」と回答した割合は半数程度に上ったが、「あまり評価しない」「全く評価しない」と回答した学生も 4 分の 1 程度おり、回答が別れた。

○グラフ



Q17 Q16 の回答の理由をなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：120

○回答

[Q16 非常に評価する]

- 1 年生はキャンパスに行く機会を優先的に設けられるべきだと思うので、キャンパス内での密集を防ぐために他学年の対面授業を行わないのはいいと思う
- やはりまだ大学には出来るだけ行かない方がいいと思うので。
- 学生のニーズと願望、大学側が出来る最大限の配慮が実現した結果だと考える
- 感染症対策と大規模対面授業再開は現時点では不可能だと考えるため。
- 個人的な意見にはなるが、対面でマスクを着用しての授業は深い極まりないので原則オンライン授業で実施されることはありがたい。
- 自分には関係ないから
- 自分勝手だが、通学時間がなくてすむのと楽に受けられるのが大きい
- 実験など以外は対面でなくてもよい 個人的にはオンライン授業が好き
- 絶対オンラインが良い
- 第 2 波がピークを過ぎたとはいえ、東京都の新規感染者数は依然として高い水準にあり、またいつ増加に転じてもおかしくない状況が続いていることを考慮すると、学生の感染のリスクを最小限にするために、本当に対面でやるべき授業（実験実習など）以外はオンラインでやるべきだと考えるから。

[Q16 まあ評価する]

- オンラインが対面になることはなさそうなので、一貫してそうだから
- オンライン授業がつまらないので
- オンライン授業は、移動もなく質問もしやすいため。
- これから冬に向かい、どうなるかわからない。ただし、もう少し対面授業を増やしてもよかったですのではないかと。
- 一年生の方がキャンパスに触れられていない分心理的な負担が深刻であることは容易に想像がつくので、評価はしてる。
- 各地から戻ってきた学生同士のお喋りにより感染が拡大する可能性は高いから
- 感染リスクを考慮すると、オンラインでもある程度賄える科目はオンラインで開講するのが良いと思ったから。
- 感染症対策を行った上で学ぶ機会を与えてくれているから。
- 感染対策として必要だと思うから。
- 感染防止に関して配慮がされているとおもう

- 基礎科目以外の科目、特に総合科目は受講者が多くなるものもあり、感染症拡大を防ぐ目的で考えればオンライン授業化は致し方ない。また、大人数の授業だと通常は意見交換や発表がしにくいものだが、オンラインならチャットを使って交流することもできるだろう。
- 基礎科目以外は大人数になりがちだから
- 基本オンラインである点は良いと思う。
- 現状総合科目まで対面にすると、キャンパス内の人数が増え過ぎると思うから。ただ、対面授業を受けたことがないから気付かないだけで、オンライン授業に重大な欠陥がある可能性も否めないから。
- 今後オンライン授業を続ける妥当性はわからないが、この情勢の中一部でも再開しようという試みは評価できるから。
- 仕方がないから。
- 受講者数が履修登録前には予想出来ず密になる可能性があるため
- 新型コロナウイルスの感染拡大はやはり怖いです。ウイルスに関する多くのことが未だ謎に包まれていますし、ワクチンも特効薬もありません。感染リスクを低減させるために、ごく一部の科目だけを体面で行い、大部分をオンラインにするということは当然必要な措置だと思います。
- 前セメスターでは 300 人規模の総合科目講義が開催されたが、これを対面で実施するとなると相当な感染リスクを覚悟せねばならず、こうした総合科目をオンラインで実施するのは仕方ないと思うから。
- 総合科目は人数が多いからオンラインにするのは仕方ないことだと思う。
- 総合科目は人数が多い授業が多いので対面は少し難しいのではないかと考えたため。
- 他クラスや他学年の生徒との交流がなくなったことは残念ではあるが致し方ないことだし、参加や質問の容易さといった点はオンラインの方が勝っているから。
- 他のやつは受講者がかなり多いのでリスクを避けるべき
- 多くの授業が大教室での講義であるため、オンラインで実施する方が通学時間が削減できるという点でメリットが大きい。コロナの感染リスクの懸念も減る。ただし 1 週間のうち 1 日は大学で授業に参加したく、演習等のごく少数の授業のみ対面で実施するのが適当だと考える。
- 対面を全く解禁しないのは筋違い、とはいえ感染リスクを考えればなんらかの形で縮小的であるべきであるから。一方で、ゼミ系のもも対面でよいのではないかと思います。どうしても学生の表情が見えない状態でやるのは難しいのではないのでしょうか。
- 対面授業に対する前向きな姿勢が感じられるから。
- 大教室での授業が多いので、対面できないのも仕方ないと思うから。しかし、人数や教室の規模によってはもう少し対面の機会を増やせるのではないだろうか。
- 大講義の授業は対面にする必要を感じないため
- 大講義系のもはオンラインでいい
- 大人数の講義であれば、わざわざ教室に足を運んで講義を受ける必要を感じなかったもので、オンラインで行うことは良いと思う。ただ、少人数の授業は、（大講義の教授による一方通行の授業

(に比べて) 学生同士や学生と教授の間でのコミュニケーションが学びにつながるので、対面による授業も必要だと感じた。(このようなコミュニケーションは画面越しでは伝わらない空気感も大事だし、オンラインでのラグにより損なわれてしまう「間」も重要だと思う)

- 大人数の講義をオンラインで行うのはやむを得ないため
- 特に重要性の高いものについては対面授業を実施し学生の間関係を促進するという明確で強い意志を実現するもので評価できる。他の講義についても本当に感染拡大を抑止する効果があるのか説明が必要か。
- 方針に特別不満は無いが、体験系の集中講義科目はもう少し対面授業を増やして欲しい。

[Q16 どちらとも言えない]

- 1年生の部分には目を通していない
- PCを使う科目は、対面でやってくれると嬉しかった。具体的には、プログラミングやCADを使う授業では、その環境をPC上に整えるのに一苦労するので、学生がきちんとできているかTAも交えて見ていく体制を対面で整えてくれるとやりやすいと思う。
- あまりに大人数だとリスクが上回ってしまうのではという予想はつくが、一部のあまり人が多くない授業までも巻き込まれるのはどうかと思う
- クラス指定科目の間と同様の理由
- しょうがないという感情だから
- なにが対面授業になっているのか知らない
- まだわかっていない
- もう少し対面でやって欲しいものの、感染リスクを考えるとやむを得ないから。
- 学部が他大学なので、当事者の利便や不便があるのかわからない。対面でなければやりづらい授業もあるだろうし、全面的に対面するには、学内での感染だけでなく電車内等で学生が媒介することの社会的な影響もあると思うので、妥当な判断ではないかと思う。
- 感染拡大の事実は分かるが、対面での授業に期待しているため
- 基礎科目以外も対面で受けてみたいから。
- 受講人数が多く、講義形式のものに関してはオンラインで問題ないと思うが、ALESAや英語中級等、受講人数が少ないものに関しては対面でやってほしかった。
- 少人数の講義は対面で行って欲しかったから。
- 少人数の授業などは、対面で開講できる余地がある。しかし、その授業の為に登校させられるのも不合理である。
- 人が多い総合科目は板書が見やすくなったりとメリットがあると思うが、ディスカッションや発表がある授業ではかなり不便だと思うから。
- 人数が少ない科目については対面授業を実施してもいいと思う
- 総合科目で一色単にするのは無理があるから

- 総合科目は履修人数も多いので、大教室を使わずにオンラインで開講するメリットはあると思う。しかし自分としては大教室で多くの学生とともに講義を聞く経験を大学生として一度はしておきたいし、オンラインでの心理などの授業ではデモンストレーションを行えず不便だと感じたので、やはり一律に決めてしまうのではなく柔軟な判断を行って欲しいから。
- 対面できるよう準備してもらえた点はありがたい一方、別の授業はキャンパスにきてオンライン授業受講という形態になり、煩わしさがある。
- 対面開講が少ないとは思いますが、リスクを避けるには致し方ないと思います
- 第二外国語インテンシヴの授業のように、対面でのコミュニケーションが望ましい授業もあると考えられるから。
- 中高年が多い教員の感染の恐れを考慮してオンライン中心になるのは妥当だが、それでも対面授業が少ない気がする。個別に対面開講の意欲がある教員の十分な感染防止策がとれる少人数授業は 1 年のクラス指定基礎科目等以外であってももう少し対面開講の増加を検討して良いのではと思う。
- 普通に対面で授業しろ

[Q16 あまり評価しない]

- おなじこときくな
- オンラインだから
- オンライン形式でやるのは無理があると思えるため
- オンライン授業であれば参加できない学生が出ることはほぼあり得ないのに対して対面授業では一部の学生にとって非常に困難が生じる（例えば関西に実家がある自分の場合、去年まで関東の親戚の家に下宿して通学していたが、親戚が後期高齢者であるため感染リスクの大きさから今後は下宿ができず、金銭的に他の住居を探すこともできないので困っている。本人や家族に基礎疾患のある学生も大変だと思う）。一部で対面授業を行うことには反対しないが、それに参加できない学生が不利にならないよう並行してオンライン授業を行うことが保証されるべきだと考えるが、そのような告知のない授業が多くあるため。
- オンライン授業は目が疲れる。1s セメスターだけで視力がかなり落ち、2 回メガネを新調した。
- できるだけ多くの科目を対面で受けたいから。
- できれば対面で実施して欲しい。集中力がオンラインでは続かない。
- もちろん難しいことは分かっているが、対面をもっと増やしてもらえたら嬉しいと思うから。
- 一部の対面が望ましい授業が対面で行われていない
- 確かにコロナは怖いけど、2 年生は A セメスターから本郷に行く人も多く、新たな学部での生活にまだ慣れていない上に、大学以外の施設(小中学校、高校、レジャー施設など)は再開しているから。
- 語学の授業をわざわざ対面でするよりも、もっと重要度の高い授業があるはずだと思う。

- 講義形式ならばフェイスシールドやビニールカーテン、ソーシャルディスタンスを用いて対面授業を行っても安全と思われる
- 高校までは普通に対面授業をやっている。人数などは当然考慮すべきだが、もっと柔軟に対面対応をしてもいいのではないか。友達と感染リスクの低い場所を選んで会うにはお金がかかる。学費が変わらない以上、もっと施設を利用できるようにしてもいいはずだ。
- 受講人数の少ない総合科目も対面でやっていいと思う。
- 人数の多さが感染のキーとなるので、少人数の科目なら対面でいいと思う。
- 総合科目は全てオンラインだから。
- 多少の授業は対面で行いたかった。総合科目では学生の発言が少なく、小・中・高等学校の対面授業よりかえって危険性の低い授業もあるのではないか。大学の授業だけが厳しく制限されてることに不公平感を感じてしまう。
- 対面がひとつもないから。
- 対面がよいから
- 対面でないから。
- 対面でないと質が落ちる
- 対面を実施する授業が非常に少なく、実質対面なしとほとんど変わらない。コロナ禍の中、学生が生活を送る上での負担は増大しており、それに見合った対面授業実施のメリットは殆ど感じられない。
- 対面授業が行えないことによる生徒側の 精神的負担が大きすぎる。
- 対面授業が行われないため。
- 対面授業にしてほしいから。
- 対面授業を再開してほしい
- 第三外国語のような発音練習を含むもの、ディスカッションやプレゼンテーションなど他の受講者とのコミュニケーションを含むもの、実習を含むものについては、オンラインの授業では大変効率が下がる。これらのうち、少人数のものについては積極的に対面形式にして欲しい。
- 二年生に対面授業の機会がない
- 文一なので大勢の授業が多いこともあり、その恩恵はあまり受けない。

[Q16 全く評価しない]

- 2 年生以降の交流の機会が欲しい
- オンラインだから。
- オンライン授業は対面よりもクオリティが落ちるから。スライドの配布や録音配布がない授業も多く、接続が不安定だと救済ができないから。
- オンライン前提のために主題科目の集中講義などが開講されなかったりするのは、東大ならではの体験をする機会の損失が大きすぎる

- キャンパスにいるのにオンラインで受けねばならないのはちょっと一。先生との時間の契約の問題もあると思うけど。
- クラス指定科目でないものは大教室で行い、学生の発言が少ない授業が多いため、それらの授業の方が感染リスクは小さいはず。それなのに、感染リスクの大きいクラス指定科目だけを対面にするのは矛盾しているから。
- すべてオンライン・オフライン併用にすべき
- なぜ、小学校や中高が再開しているにも関わらず、大学がこの程度しか対面を再開しないのか理解できない。世間では旅行を推進する向きすらあるのに、大学がこのようなことしかできないのはなぜなのか説明してほしい。皆様の健康を重視して、みたいな説明はいらない。なぜ小中高に劣る対応しかできないのか説明してほしい。感染対策の技術が劣るのか、感染が発生したときの社会的非難を浴びるのが小中高の職員よりもいやだと感じているのか、教えてほしい。
- ほぼすべてオンライン形式のため。
- 可能な限り対面で行ってほしいから。
- 海外の事例だが、対面式授業を行った結果、大学生の感染者が爆発的に増えた。どれほど対策を講じても感染発生は防げない
- 学生数 20 名の専修で実験や実習をオンラインで行う意味がわからない 小中高生の対面授業や課外活動(大学生のものも含む)が許されて、なぜ 20 人での実験・実習ができないのか。
- 完全対面授業をすべきである。
- 感染症対策としては仕方ないのかもしれないのかもしれないが、大学生や大企業ばかりが制限をかけられていることに違和感を覚える。
- 教員の事情で対面授業が再開されない可能性があるのがなっとくできない
- 教養学部の方針では必修の一部のみ対面となっているため、建前上は対面を復活させると言いつつ（1 年生以外は）事実上ほぼオンラインとなっている。学部長の文書でもコロナは「リスク」になったと記載されていることと比較しても、著しく言行不一致ではないか。感染リスクを気にする教員が存在するというのは否定できないが、原則として対面として、特別な申請があった場合にオンライン開講を認めるという形にすべき。2 年生にとって A セメスターは内定先の授業を初めて受けるセメスターとなり、1 年生の S セメスターと同様に学生同士の交流機会を設けるという意味で対面授業には意味があると考える。
- 主題科目や英語中級なども対面にして欲しかった 同じクラスというコミュニティだけでなく、同じ主題科目をとったメンバーは、関心領域なども近いコミュニティだと思うので、そこでの友達も欲しい
- 受講人数が多いため仕方がない部分もあるが、学問の空気に触れる機会を一切奪ってしまうのは大きな問題ではないか（一切というのは、受講科目のうちのほとんどがこの総合科目や主題科目であること、それらの科目はより専門性が高いことによる）東大があの教養主義の「奥の院」（竹内洋『教養主義の没落』）のあった場所であり、単位だけ与えるための就職予備校大学ではないというのなら、東大は学問の空気に触れる機会を提供しなくてはそれにはいえないであ

ろう　ここでいう、東大が提供せねば東大ではないという学問な雰囲気とは、具体的には、各科目の授業における学生、教授の熱意、彼らの考えや態度に触れること、同じ教室で出会った仲間や教授たちとの議論などによって得られる。授業内容の理解のためだったら、ただ本を読めばいい。これでは大学受験予備校となんら変わらない。そうではなく、対面でのリアルタイムかつリアルな接触によって得られる技術や感銘こそ、大学が学問の奥の院として存在するゆえんである。実際、単位を取るための就職予備校としてではなく、このような機能にこそ大学の本義があることを見定め、それゆえ大学に入学した人も多いである。殊東大においては間違いない。こうした人が約束されたサービスを提供してもらえないのは大きな問題ではないか。いずれにせよ、現在でも学問の奥の院を自称し、かつあの教養主義の熱気の伝導の地であった東大が、そうであるためには、この対面で受け継がれていく学問の血を絶やさぬ努力がなされなければならないだろう。

- 全て対面にして欲しい。
- 総合科目で対面で行うべき科目もたくさんあるのに、ほとんどオンライン授業を継続する方針だから。
- 他の東京にある大学では、それぞれのクラス3回まで対面授業を許可しているところもある。初年時ゼミナール、ALESAs、社会科学・自然科学ゼミナールや、受講生の少ない授業は対面でやってもいいと思う。
- 対面が少な過ぎる
- 対面授業がないことで人とコミュニケーションを取る機会がないから。
- 適切な感染予防対策を講じればほとんど対面授業にすることができるのにごく一部しか対面授業する予定がないから。
- 理由や基準を説明されず勝手に決められたため

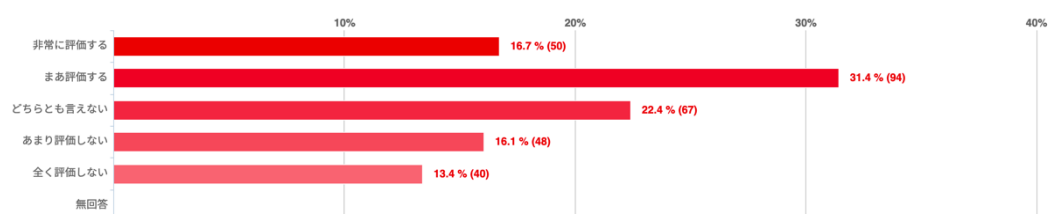
Q18 1年生のクラス指定基礎科目等以外の1Aセメスターの授業形態を原則オンラインとする方針について、全体としてはみなさんがどのようにお考えか段階式でお聞かせください。

回答数：299

○概説

Q16 同様の回答結果となった。設問が類似していたことに大きな原因があると考えられる。

○グラフ



Q19 現時点で検討されている 1 年生のクラス指定基礎科目等以外の 1A セメスターの授業形態について、Q18 のように答えた理由、その他こうすればよい、こうして欲しい、ここは良くない等のご意見をなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：92

○回答

[Q19 非常に評価する]

- オンライン化は感染拡大防止に効果があるだけでなく、S セメスターの経験から、学生が教員に対して質問しやすい、通学時間がなくなることで時間の有効活用ができるなど、オンラインならではの利点もあることが分かっている。一方で、対面授業と比べて同じ授業を受講する学生間の対話が難しいなどの問題点がある。しかし、4 月当初考えられていたような、対面授業が行えない状況での次善策としてではなく、対面授業とは別の特性を持つ授業方式として積極的に評価したい。基礎実験やクラス単位で行われる授業については学生間の意見交換から学ぶことも多かったため、可能であれば対面授業で行うことが望ましいと考えるが、総合科目等では学生間の対話はもともと少なかったこともあり、オンライン化による弊害は大きくないと考えられるため、オンライン授業を継続するという学部の方針を支持したい。無論、個々の学生のオンライン環境構築の支援などは継続して行ってほしい。
- オンライン授業からいきなり全て対面にされると、コロナ云々は関係なく通学の負担が大きいかから
- オンライン授業のままでよい
- ない
- やはりまだ大学には行かない方がいいと思うので。
- わずか数コマの授業のために、感染者が集中する東京にいかなくてもよいから。
- 感染対策を最優先すべき。
- 授業を受ける際の自由度が生じるから
- 少人数ゼミがどれくらい対面になるかにもよるが、少人数はなるべく対面にしてほしい。
- 全面的に支持する
- 対面の機会はもう少し増やして欲しかったが、最大限配慮してもらえたと思うから。
- 第 2 波がピークを過ぎたとはいえ、東京都の新規感染者数は依然として高い水準にあり、またいつ増加に転じてもおかしくない状況が続いていることを考慮すると、学生の感染のリスクを最小限にするために、本当に対面でやるべき授業（実験実習など）以外はオンラインでやるべきだと考えるから。

[Q18 まあ評価する]

- 17と同じ（注：講義形式ならばフェイスシールドやビニールカーテン、ソーシャルディスタンスを用いて対面授業を行っても安全と思われる）
- Sセメスターで得た知見を十分に活かし、「対面式の代わり」ではない授業を展開するようにして欲しい。すなわち、オンラインの特性を活かした授業を提供することを求める。特に大学側から教員側にそう働きかけて欲しい。また、授業時間の長さや課題の量などについて、Sセメスターと同様に慎重を喫して対応して欲しい。できれば授業は録画して公開してほしい。
- オンラインと対面を組み合わさっていると履修を組む上で面倒である。
- オンラインなのは素晴らしい
- オンライン授業を続行することは評価できる。ただ、一部で対面授業を行う授業があり、それらの授業において対面で参加できない学生が不利にならないような配慮がなされるという告知のない場合があるのはいただけない（必ず並行してオンライン授業を用意すべきだと考える）。
- クラス指定基礎科目以外では原則オンラインとなっていることはやはり感染拡大防止の観点から大いに評価すべきだと思います。人脈が中高生と比べて格段に広く、多くの場所で、多くの人との接触の機会がある大学生を、先行き不透明な現状の中でキャンパスに戻すのは早すぎると思います。
- クラス指定基礎科目以外は人数も多いため、これを対面とするくらいなら、クラス指定基礎科目の対面授業を増やして欲しい。ただ、(よく分からないが)2年生や、それ以上の学年の先輩方が対面授業を受ける機会が全く無いのであれば、そちらを優先して欲しい。また、総合科目は他のクラスの人も知り合う機会にもなるため、人数の少ないものは対面で実施して欲しい。
- もうちょい対面増やせる
- 学生のチャットが低レベルなものがある
- 感染リスクを考慮すると、オンラインでもある程度賄える科目はオンラインで開講するのが良いと思ったから。
- 基礎科目に比べて一緒に受ける知り合いがいないので、対面授業にしてもらって同じ授業を受ける知り合いを作りたい。
- 現在の状況においては妥当な判断だと思う。
- 現時点でオンラインであると効果が激減してしまうような授業がオンラインになっている可能性があるから。例えば、私たち一年生の対面授業と引き換えに、二年生の対面授業が大きく減らされてしまっている気がする。
- 質問文を何度読んでも Q16 と Q18 の違いが分からないのですが…
- 実験、二外以外にもう少し対面でできる授業はないのか。
- 少しでも同クラに会えること自体に意味があると思うから
- 人数が少ない授業はなるべく対面が良かった。
- 人数が少なければ対面実施を検討してほしい。

- 総合科目は大人数で行われていることが多く感じるので、感染機会を下げれるうえに、席順に関わらず平等に受講できるから。
- 対面が必須というわけではないから
- 対面でなければ支障が生じるようなものは、総合科目であっても体面にすべきです。L 系列の第三外国語や人文ゼミなど。
- 大学における授業が、大学の施設や環境を前提としてなされてきたものであるもので、オンラインで完全に代替することは不可能であると思うが、状況を考慮すればやむを得ない判断だと思う。
- 大学の規模や授業のやり方を考えると仕方ないことだから。もう少し対面を増やしてもいいと思う。対面授業と同じ日にオンライン授業があった場合に、遅刻などが起きないか不安。
- 大講義の授業は対面にする必要性を感じないため
- 中途半端に対面授業を実施されるよりは全面オンラインの方が良い。
- 必修科目と時間がかぶっているせいで履修できない総合科目を、別の時間に履修できたらいいと思います。一方的に説明を聞くだけの講義に限定されますが。

[Q18 普通]

- 1 年生の部分には目を通していない
- PC を使う科目は、対面でやってくれると嬉しかった。具体的には、プログラミングや CAD を使う授業では、その環境を PC 上に整えるのに一苦労するので、学生がきちんとできているか TA も交えて見ていく体制を対面で整えてくれるとやりやすいと思う。ただ例外を作り出すと止まらないことも知っている。
- Q17 と同じ
- オンラインだとディスカッションが難しいので、一部対面にしてほしい
- オンライン授業は、登校時間の短縮や質問のしやすさなどのメリットがある。一方オンライン化を理由としてレポート課題を増やす教員が多く、それらをこなすだけで時間が足りなくなり有意義な学びが出来ないから。
- キャンパスに行く回数を増やしたいので、なるべく対面式の授業を増やして欲しい
- 一部解除でも学生の来る人数はかわらず、むしろ異なる授業をとった人が一部に密集するから、かえって危険。
- 個人的には全授業対面にして欲しいが、社会的責任のためにそれは不可能だと理解しているの
- 工夫をすれば、対面で授業を実施できる科目もあるのではないか。
- 授業そのものではあまり感染は拡大しないのではないかと思う。課外活動の抑制などを議論する条件付きなら対面授業をもう少しできるのではないか。
- 状況が許す限りなるべく対面が増えてほしい。

- 生徒側の都合のみで決まる話ではないことは十分承知だが、できるだけ「他人との関わり」を重視してほしい(オンラインではどうしても不足気味になってしまう)
- 対面講義の後すぐのオンライン講義をわざわざ大学で受けるのなら対面にすればよいのではないか。
- 対面授業を行って欲しい。
- 対面授業を実施し、その映像をオンラインで流す。
- 本来のところもう少し対面を取り入れ、クラス単位での交流の場を増やして欲しいが(前述のように TLP だと第二外国語ではクラスとの交流が望めない)、大人数の講義もあるため致し方ないかもしれない。

[Q18 あまり評価しない]

- ALESS など少人数クラスは対面でもいいのではないかと思う。
- できれば対面で実施して欲しい。
- 一定の基準の基で柔軟に講師の考えに任せる
- 一定人数を下回る科目については対面にして欲しい。
- 隔週などでの登校日を設けてほしい。
- 講師だけオンラインという形式がクラス指定科目で出来ているなら、全科目その形式でやって欲しい
- 少人数のものは、対面でよいと思う。
- 少人数の授業ならば対面を再開してほしい
- 少人数の授業に関しては対面で行うようにして欲しい。
- 席の間隔を開ける、除菌シートを設置して席の利用者に自分で除菌してもらい、消毒液を出入りに配置するなど、基本的な感染対策は十分に行えると思うので、対面授業にしても差し支えないと思うから。
- 総合科目については S セメスターでは惑星地球科学実習やスポーツ・身体運動実習など実習科目においてもオンライン化が困難なものが不開講になったが、この状況が続くと学生が体験してその分野について理解を深める機会がなくなる。また、他の学生との資料を用いた議論やグループワークもオンラインでは一つの画面しか画面共有できないなどの環境の制約による影響が大きく満足に実施できない。以上の事柄を勘案するとオンライン総合科目においても実習系や少人数の討論・グループワークは可能な場合感染防止対策を講じて対面開講すべき。教員が喋るだけの講義はオンラインでも問題なし。

2 年生の持ち出し専門科目についてはオンライン開講のみの場合、後期課程の内定先の同期と仲良くなりやすく、人間関係の形成に影響が出る。特に Twitter や Instagram を使っていない者はなかなか友達ができずに孤立する恐れがある。実習がない学科やオンライン実習のみの学科もある。上でも述べたとおり実習や少人数の討論・グループワークは可能なものは対面開講すべき。

実習や特に人数が多くない学科は、教員側が交流会を企画するなどして内定者同士で交流できる機会を十分確保すべき。

- 対面を取り入れてほしい
- 第三外国語のような発音練習を含むもの、ディスカッションやプレゼンテーションなど他の受講者とのコミュニケーションを含むもの、実習を含むものについては、オンラインの授業では大変効率が悪くなる。これらのうち、少人数のものについては積極的に対面形式にして欲しい。
- 二年生以上が一年生に比べて学校生活が出来上がっているというのは納得するが、二年生も進学選択後の新しいコミュニティづくりが必要だ。何人以上になったら強制的にオンライン、ということにして原則はオフラインでいいのではないか。
- 履修人数を制限する科目(第二外国語インテンシブなど)は対面でも良いのではないか

[Q18 全く評価しない]

- おそらくほとんどの学生が思っていることだが、オンラインと対面が組み合わさるのはふつうに面倒くさい。
- オンライン授業は肉体的・精神的に大変で、人間関係の構築にも支障をきたすから。
- オンライン授業を含め学生活動に対する制限を緩和すべき
- クラス指定基礎科目以外に対面授業が全くないという点は評価できない。そもそも入学時点ではキャンパスで他の学生とともに教授の授業を対面で受けることを期待していたわけであり、社会経済活動が再開されているにも関わらず、ごく一部の基礎科目以外対面授業の機会を当初から奪われているのは残念という他ない。他大学では受講人数を基準に対面の可否を決定しているという話も聞くので参考にすべきではないか。
- すべてオンライン・オフライン併用にすべき
- 完全対面授業をすべきである。
- 教授・講師が高齢の場合は感染および重症化のリスクを考えてオンラインにすることは納得できるが、そうでない場合は対面にしてほしい。
- 少人数科目は全て対面にして欲しかった
- 人的ネットワークが足りないことで、取り残される学生が出てくるだろうから。
- 全て対面にして欲しい。
- 総合科目ほど、クラスでは会えない人と意見交換をするいいチャンスだと思っていたので、せっかく総合科目を取れる数少ない機会なのに、もったいないと思いました。
- 総合科目もディスカッションや意見交換を伴う授業は対面授業にすべきである。原則オンラインではなく、授業形態によるべきである。
- 対面がない理由がわからない
- 対面で行って構わないと思う
- 対面と配信（オンライン）の同時開催をすればよい ニコニコ超会議のようなものをイメージしていただければよい つまり、対面授業の展開及び、その同時配信ということになる この、対

面と配信の同時開催は、技術的にそれほど難しくもないのではないか zoom、youtube live、ニコニコ生配信など意外にも、配信のためのプラットフォームは現在溢れかえっており、このようなシステムを使って多くの人が「配信者」として活動している 感染症防止と一切関係なくとも、この、対面授業の同時配信というやり方が最も望ましい授業の形であることは、明らかであるから、これをそもそも目指すべきである かねてより、対面授業を苦手とし、またそれに大きな困難を抱える人もいる 配信の記録（アーカイブ）を残せば、授業は時間と場所、障がいの制約を乗り越えられることになる AI を活用することで、言語の壁も乗り越えられるであろう このように様々な事情からオンライン授業（リアルタイムとアーカイブどちらも選択可能）を望む人もいれば、逆にそれでは困る人もいるであろうし、技術的問題（＝利便性、可能性）とは別の理由（仲間と教授との接触によって触れられる学問の空気など）から、対面授業を望む人もいるであろう 多様性を認めようとする大学からすれば、このような方向が目指されるべきものであることは、明らかである

さて、このような仕組みが追求されるべきであり、難しくもないということが明らかになったところで、このコロナウイルスの状況下において、それをどのように展開すればいいのか、ということになるが、たとえば、以下のような方法があるだろう まず各授業で定員を設定しておき、受講者の中全員に対し、次回の授業について、対面での参加を希望するかどうかを毎回聞く（オンラインのフォームで回答してもらう） 希望者が定員を下回っていれば、そのままその回では希望者全員が対面授業を受け、残りのオンライン希望の人はその対面授業の同時配信に参加あるいはアーカイブを視聴するのである 定員を超えていたら、毎回抽選にする（なるべく均等に抽選に当たるように配慮する仕組みを取り入れるのもよい） また、この対面授業を、2週に1度だけ開催し、あとはオンライン、というのでもよい これは現実的な方法ではないだろうか 東大は声明で、オンライン授業では今まで見られなかった学生の主体的な授業参加がみられ、この新たな可能性を取り入れて行きたい、といていた しかし総合科目などを全面的にオンライン化することは、大学が学問の奥の院であることをやめ、就職予備校となることを意味する 東大でこのような事態が発生するのはあり得ないだろう 以上述べてきた対面の同時配信ならば、（ネット上の「配信」を見ればよくわかるが）対面授業を展開している教授は、その場にいる学生との交流と同時に、配信を視聴している学生とも交流をできる S セメスターの授業で zoom 上でたくさんの学生からのフィードバックがあったように、配信を視聴している学生からの活発なコメントにも、この仕組みでは答えられるのである 対面が苦手あるいはかなり困難な人、オンライン配信だとたくさんの質問ができ、それを望んでいる人、通学の関係、生活の関係から、配信のアーカイブを好きな時間に視聴したい人、必要上あるいは学問のため、対面を望む人、といった様々な人の多様性を重んじるこの大学の目指すべき方向は明白である

- 対面にしてほしい
- 対面希望者を対面授業にするべき。
- 対面授業をするべき

- 同上（注：オンライン前提のために主題科目の集中講義などが開講されなかったりするのは、東大ならではの体験をする機会の損失が大きすぎる） 屋外で行う集中講義は例年通り開講すべき
- 二年生で A セメスターから後期課程に進む人も、新しい環境で知り合いが少ないという一年生と同じ状況にあるので、そちらにも配慮してほしい。
- 必修の対面授業、オンライン授業を同一の日に入れないで欲しい。
- 普通に対面で授業しろ

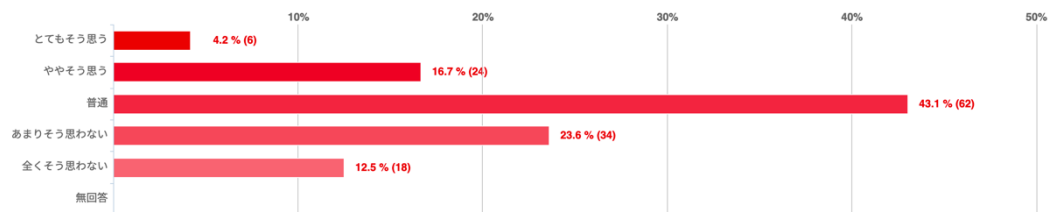
Q20 現時点で、「下宿生」に十分に配慮されていると思いますか。

回答数：144

○概説

「普通」との回答が最も多く 4 割を超えた。「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答した学生も全体の約 35%に上った。

○グラフ



Q21 「下宿生」への配慮について、Q20のように答えた理由や、不安に思うこと、こうして欲しいと思うことなどがありましたらなるべく詳しくお聞かせください

回答数：35

○回答

[Q20 ややそう思う]

- 時間割の発表をもう少し早くしてほしい
- 全部オンラインにしてくれないと中途半端なのは動きづらいし定期などの問題も複雑化する。
- 東京で下宿しているのなら、対面であろうとなかろうと問題は生じないであろう。

[Q20 普通]

- A セメスターの授業形態が発表されるまで、東京に居住すべきか否かがわからなかったことが不安だった人もいると思う。繋がりが希薄なまま下宿することや急激な体調悪化の不安がある人もいると思うが、大学としては致し方ない判断と思う。
- オンライン授業にしる対面授業にしる、いきなり増減すると帰省やオンライン環境の拡張などの対応に追われる可能性が十分にあり、不安を感じざるをえない。
- キャンパス近いからなんとでもなる 地方勢への配慮を増やしてあげてほしい
- コロナ以前もそこまで配慮されているようには思えません
- ない
- 下宿生に特に負担が増えた訳でもないと思うから。
- 下宿生の事情はよく知らない。
- 下宿生への配慮が何を意味するか分からない。経済面の支援があればありがたいが下宿生のみ問題でもないし、精神面での支援は実施されていたように感じる。
- 我々2年生には、サークル活動が許可されていることもあり友人との交流があるが、1年生にとっては交流の場がなく大変だと思う。
- 授業に関しては、オンライン授業は下宿生にとって対応は容易であり、授業形態についてのお知らせもかなり早い段階で来ていたことも評価できる。一方、下宿生は基本的に一人暮らしであり、大学に通えないと同級生と直接会うことが非常に困難になる。A セメからの授業形態であっても同級生同士の交流の機会が十分ではないと思う。

[Q20 あまり評価しない]

- S セメでは、下宿から帰省して実家で暮らしたのだが、A セメもオンラインと宣言することで、引き払いやすくなる。しかし、急に試験は対面でとなる可能性も捨てきれない。

- キャンパスで授業をしなかった分、S セメスターの家賃を援助してもらいたい。
- コアタイムを導入しても 25 分で学校に迎える人の数はさほど多くはないと思うから
- 一人暮らしを始めた人への配慮が特に感じられない
- 学食をもう少し長く開けて欲しい
- 時間割が合わせにくい
- 実家から受講する手段があっても良いと思うから
- 食堂を十分に活用したい
- 通信設備の整備
- 東京に滞在する費用対効果に見合わない。
- 特にこの春上京してきた学生は、なれない環境の中緊急事態宣言が出され閉塞感に見舞われることも多かったと思う。それに対して配慮しようという姿勢がほとんど見られず、放置されているように感じた。
- 特に昼食は大学の食堂で食べることを想定していたが、このような形態では自分で用意しなければならず、家事に割く時間が増えてしまう。
- 特に配慮を感じられる情報はない。

[Q20 全く評価しない]

- 3 月のオンライン移行の発表について、確定から授業開始までの期間が短すぎて必要な物がギリギリまで分からず、一旦帰省していたのに再度東京に取りに行く羽目になった。実施 1 ヶ月前には全ての方針を決定すべき
- 一度上京したら地元へ戻れなくなる上に東京で生活するには必要最低限でも電車に乗ることが多く、不特定多数との接触が予想される。そのため学内での配慮だけでは不十分なのではないかと思う。ラッシュ時に大学に向かわなくてもよいようにしてほしい。
- 下宿生は空家賃に加えて電気やガス等の基本料金が発生しているため支援が必要
- 駒場キャンパスに自由に入らせてもらわないと食堂でご飯食べられない
- 語学のために A セメスターになって上京した学生に WiFi ルータ貸与などの配慮がなされるかが心配。
- 授業が一部対面であるなら実家で受講することもできず、かと言ってほとんどの授業はオンラインであり、一人で家に籠らないといけない時間は長い。最も下宿生にとって辛い形態だとかんがえる。
- 世田谷など都内の金持ち地域に住む下宿生だけではないことを学内は認識しているのか
- 判断が遅く、空家賃を払わされることとなった。
- 友達が出来にくく不安。また情報が得づらい。

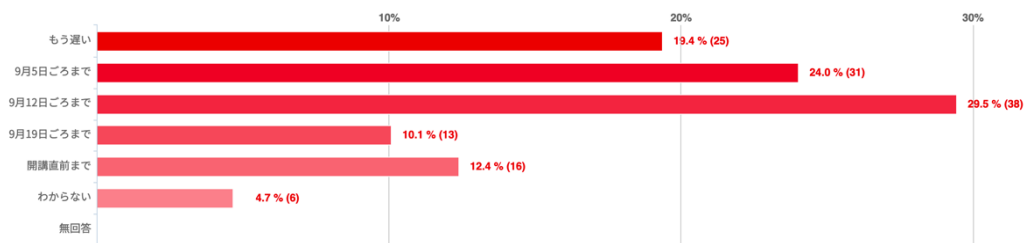
Q22 A セメスターの開講形態について、遅くともいつまでに確定して欲しいと思いますか。

回答数：129

○概説

回答期間の途中で開講形態が確定したため、途中より当該設問をパスするよう設定を変更した。

○グラフ



Q23 その他、情勢が変化した時の対応のこと以外について今年の A セメスターの開講について、こうすればよい、こうして欲しい、ここは良くない等のご意見をなるべく詳しくお聞かせください。学部執行部にお伝えするほか、今後の本会の調査の参考ともします。

回答数：53

○回答

- ・ある程度のリスクは覚悟したうえで、もっと強気に対面授業をどんどん取り入れてほしい。
- ・教員がメールの返信をくれなくて困ることが多かったので、定期的にチェックして、連絡がスムーズにできるように改善してほしい。
- ・キャンパス内でオンライン授業を受けるための、場所、インターネット環境、電源の確保を万全にしてほしい。
- 1 年が一部オンラインとなると、1 限に二外対面の後 2 限が一列 FLOW オンライン、などということが発生しかねない。総合は JK 棟で受ければよいが、必修で対面とオンラインが連続すると構内がパンクしないか心配です
- 2 年生でも専門科目で置いていかれると悲しい。
- A セメスターは原則オンラインとされているが、もっと対面授業を増やして欲しい。それができなくても、状況次第で、対面授業に変更するという選択肢を十分に残して欲しい。
- wifi 貸出をしてほしい
- オンライン授業のままでよい
- キャンパスライフを体験するなら何も対面にすることはなく、夏休みにツアーを組めばよかった。文科省がそれで許すのかは知らないが。
- キャンパス内の混雑緩和のためには対面開講の科目は時間帯を工夫し、クラス指定の必修科目や内定先の持ち出し専門科目と言った同じ人たちが集団で受ける科目群は対面開講するものはなるべく近接した曜限にするのが良いと思う。なぜかわからないがもともと東大は 1 限に開講の科目が少ない学部・学科が多いのでより効率的な混雑緩和のために対面開講の科目は 1 限の開講を増やすことが良いのでは。
- こうしたアンケートは続けてほしい。
- コロナがニュースを席卷しないようになったら対面でもいいんじゃない？
- スポ身のみ都合上対面で、その他は原則オンライン
- せめて対面を毎週にすべき
- チューターがほしい
- できるなら途中からでも対面にして欲しいです@

- とにかく全部オンラインにすべき。
- 二外はオンラインでよくないか?と思った。
- やはり、公平な評価を意識するようお願いします。
- 一時帰省の下宿生にとっては、オンラインかそうでないかは家賃に関わる。現に私は 30 万ほどドブに捨てた(という言い過ぎだが、)ようなものなので、全学的に大部分は A セメもオンライン維持となった以上、下宿を引き払うつもりになっている(いろいろなアンケートを見る限り、このタイプの学生は一定数いるのではないか)。そのため、A セメの途中で「対面のみ」に変更しないで欲しい。
- 一部の授業に関しては、1A で取らずに 2S/A で取るということが出来る。A セメスターの開講や履修登録に先立ってこの判断に際して必要になる情報を開示したり、選択肢を増やすような措置があるとよい。前者の例としては、「来年の S セメスターでは(もちろん感染が収束に向かっていているという条件下で)対面形式で同一内容の講義を開講する予定」などの情報を開示することが考えられる。また後者の例としては、スポ身の授業を 2S に履修しやすくするように開講曜限や種目を増やすことなどが考えられる。
- 課題の量が適切に調整されることを前提とするならば、オンライン化を望む。そうでないなら対面で良い。
- 学校内でオンライン授業を受ける際、クラスである程度かたまれるような制度が欲しい。
- 学生の精神的な面に対する配慮や、サポートがあまりに不十分である。オンライン授業であると、大学の構成員である意識が持てず、社会からの疎外感を感じることに繋がると思う。
- 学生を重視するような感じを全く受けない。本当に腹が立つ。
- 学生間で教員に気兼ねなく対話できる環境を構築してもらえると良いと思う。S セメスターでは ITC-LMS の掲示板機能などを使って学生間の情報交換ができるように試みていた先生がいらっしやった。この試みは評価できるが、実際にはあまり使われていなかった。これは、学生間の情報交換を行う場所であるとはいえ教員が内容を確認できる場であることから、通常の質問フォームとの違いが不明確だったためであると思われる。
- 完全対面授業をすべきである。
- 感染爆発が起これば全面オンラインに戻れば良いと思います
- 極少数の講義のみ対面式を実施するぐらいであれば、いっそのこと全面オンラインの方が良い。時間割の都合上大学に通ってオンライン講義を受ける必要性が生じるが、何かの冗談のようである。
- 形で分けるのではなく、内実で対面向きのものとオンラインで全く問題ない種類のものを分類していただければと思います。
- 後期課程の学部が決定していない 2 年生への対応が疎かではないか。実家に帰省しているので、数日で東京に戻るの難しい。
- 国会や自民党総裁選であれだけ集めて、感染者まで出ているのに特に何も無いのだから少人数授業に関しては可能な限り対面で行ってほしい。

- 今期は全てオンラインでの開講が望ましいと考えます。やはり現状、多くの人と関わりながらキャンパスで通常通りの学びを行うのは気が引けますし、感染拡大防止の観点からも、行動範囲が広く、人との接触が多い我々若者の間で多くの接触が生まれることは望ましくないと思います。また学期末の試験も S セメスター同様、オンライン試験を中心に行うべきだと思います。
- 今後の感染者数が減れば、大半の授業を対面授業に移行できるように整えて欲しい。今のままで情勢に関係なく、原則オンラインが保たれることが伺える。
- 私は対面の方が良質な授業だったと思うので、対面授業の実施は評価する。しかし、クラスター等が発生すると、世間の批判や対面授業の中止もありうるので、対策への協力や違反行為についてはかなり厳しく対応するべきだと思う。
- 試験について、少なくとも今の情勢では対面で実施すべきだと思うが、いずれにしても早めに対面での試験実施の可能性について言及してほしい。
- 時間割等が発表され、実際に始まれば色々な意見が出てくると思う。
- 周囲の状況に左右されないようにしてほしい
- 少なくとも 1 年生に関してはもっと対面授業を増やして欲しい。他大学では、2 年生以上はオンラインを継続するが 1 年生は対面にするとところがあると友人から聞き、非常に羨ましかった。
- 前学期に開講されなかった総合科目や主題科目の講義も広く受講できるよう、一限などうまく活用した時間割を組んで欲しい
- 総合科目の曜限が一部に集中しすぎて、科目選択の自由が少ない。
- 対面をより増やしてほしい
- 対面を実施する授業が非常に少なく、実質対面なしとほとんど変わらない。もっと対面授業を増やすか、或いは全てオンラインにするかを選択すべきだ。
- 対面を増やしてほしい
- 対面形式をとる授業であっても録画配信またはライブ配信があると助かります。-> 対面が必須となるとキャンパスにきてある授業はオンライン授業、またある授業は対面となり非常に煩わしい為。
- 対面授業の日にオンライン授業があるのが少し不安です。人数や電源、wifi の弱さなど
- 対面授業を増やして欲しい。
- 通常通り大学再開しろ
- 展開科目、主題科目のゼミ形式の授業では、最初から定員を少数にしているものもある このような授業だけはせめて、対面で実施して欲しい 2 週に一度で構わない まず一つには、先から述べている、学問の空気のためである このような少人数のゼミ形式の授業では、教授や他の仲間との（心理的）距離が近い議論を通し、密接な人間関係を築くまたとない機会であり、また対面で感じる雰囲気を通し、学問の空気に触れる大きな機会である もう一つは、技術的な問題である オンラインで議論をするというのは難しい タイムラグによる時間の無駄や苛立ち、お互いの発言が被ることで聞こえなくなる事、などによって、対面で生じるスピーディーな熱い議論が不可能である さらに、ラディカルな批判が出にくいという、議論のために致命的な問題もある

ラディカルな批判をともなった密度の濃い議論は、相手への信頼によってこそ成り立つものである。対面で一度も会ったことのない相手とこのような議論をするのに十分な信頼関係を築くのは難しい。また、自身の発言に対し、相手がどのように感じたのかを捉えることも難しい。対面ならわかる、相手の反応の雰囲気というものがある。そのため発言は滞り、余計な不安を抱えることにもなりかねない。このようにして、少人数のゼミ形式の授業にとって最も大切な議論が、せっかくの機会であるのにも関わらず、あまり密度の濃いものとはならない、という問題が生じるのである。学問を求め、深い人間関係と深い経験を伴った豊かな生を求める者にとって、（そしてそれだけを求めて「大学」に来たものも多いのである）このような授業が全てオンラインになるというのは、計り知れない損失であり、大きな失望であるのである。このような人のことを、切に考えて欲しい。定員の限られた少人数ゼミ形式の授業は、（2週に1度でもよいか）対面なくして、成り立つものではないだろう。

- 東京都の感染者数が一定数を下回ったならばなるべく平常通りの学校生活を送れるようにして欲しい
- 特にない。
- 様々な事由により対面授業に出席できない学生がいることは間違いないので、そのような学生を排除せず、全ての科目で（例え対面授業を行う場合でもそれに出席できない学生への代替措置として）オンライン授業を用意してほしい。
- 履修人数が少ない科目は対面で行ってほしい。大人数授業が行えないことで、密を回避するのに十分な広さの教室は確保できるのではないか。
- 例年に比べて精神的に明らかなハンデを背負ってる、その中で将来の設計も背負わなければならないことは相対評価であるにせよ、考えるだけで尋常ではなく辛いSセメでした。そういった生徒の精神の個人差も考慮に含めて欲しい。

【情勢が変化した時の対応について】

(説明)

新型コロナウイルス感染症の情勢は、今後も変化し続けることが予想されます。

そうした時を見据えて、A セメスターについて皆さんがどのような対応を希望されるのかお伺いさせていただきます。

① 感染状況が悪化した場合

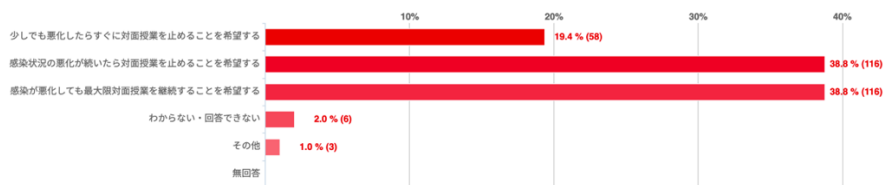
Q24 新型コロナウイルス感染症の感染状況が悪化した場合にどのような対応を希望されるか、まずは選択式の質問に大雑把で構いませんのでお答えください。

回答数：299

○概説

「少しでも悪化したらすぐに対面授業を止めることを希望する」と答えた割合は2割程度となった。一方、「感染状況の悪化が続いたら対面授業を止めることを希望する」「感染が悪化しても最大限継続を希望する」と答えた学生はそれぞれ4割近くに上った、

○グラフ



○その他

- 教員や学生の判断でオンライン形式に切り替えられるようにするとい。
- 対面とオンラインを選べるようにする。
- 感染状況の悪化が続いたら一定期間対面授業を止める。

Q25 Q24 について、感染状況がどのように悪化した場合に対面授業を中止すべき（ないしオンライン受講への切り替えを認めるべき）とお考えですか。 例：（指標 A）が××になった時。

回答数：123

○回答

[Q24 少しでも悪化したらすぐに対面授業を止めることを希望する]

- 1 段階警戒を強めた時
- 1 日の感染者数が過去最高を更新した時
- いくら学内で感染防止対策を徹底しても、人口中の感染者の割合が増えれば通学時の公共交通機関等での感染リスクが高くなるので、現在のレベルでも対面授業はあまり得策でないと個人的には思う。また、東京都で新規感染者が日に 1000 人を超えるようであれば直ちに中止すべきだと思う。
- 医療体制が切迫したとき
- 学生・教職員同士を媒介として感染が拡大したと考えられるとき
- 学生 or 教職員に感染者が発生した時
- 学生を通じての感染が発覚した時
- 学内でクラスター発生が認められた時
- 学内に感染者が出たとき
- 学内に感染者が出たとき。
- 感染者数がある場合。
- 感染者数といった短絡的な指標では測れないので、検査数や病床の余裕さなど、総合的なデータを踏まえた判断をお願いします。
- 感染者数に関わらず、医療現場が逼迫した場合。
- 感染者数の増加とともに、都内での重傷者数が増えてきた時。
- 受講者に感染者がいるとわかった時
- 新規感染者数が単に増加した場合ではなく、重症化率や致死率が上昇した場合。もしくは、重症化率や致死率が低くとも、これまでにないほどの爆発的な感染が起こった場合。
- 世間で第 2 波のように全体的に注意喚起が行われた時
- 対面授業に参加する東大関係者に感染者が現れたとき。
- 都内感染者数が 200 人を超えた時。
- 東京の感染者が 3 桁の状態に対面授業を行うべきではない。
- 東京都の 1 日あたり新規感染者数が 1 週間に数百人程度増加の時。
- 東京都の 1 日の新規感染者数が 300 人を超えた時。東大内で感染者が出た時。

- 東京都の陽性率が 5%を越えた場合。
- 東大生の感染率が、一般の感染率を上回ったとき

[Q24 感染状況の悪化が続いたら対面授業を止めることを希望する]

- ・再び緊急事態宣言が出されたとき。 ・駒場キャンパスでクラスターが発生したとき。
- ・同キャンパス内で感染者が出た時 ・7月下旬の東京のように、明らかな流行の波が来た時
- キャンパス内での集団感染の事例が1つ以上観測された時。
- キャンパス内で感染者が出た場合は即刻オンラインにすべきだと思う。(それでも遅い気がするが)
- クラスターが発生したと認定された時
- これまでの記録よりも長い期間増加が止まらないとき
- そもそもそのような指標が設定されていないので、(数値の)指標を設計してほしい。
- 医療崩壊のレベルに達した時。
- 医療崩壊の可能性が上がった時
- 学内が感染源となったとき 緊急事態宣言や東京アラートが再び発令されたとき
- 学内でクラスターが発生したとき。
- 学内で大型のクラスターが発生し、重傷者や死者が出た時
- 学内感染拡大が確認された場合。
- 学内感染者が一人以上発生したとき
- 感染の広がりにより、再び大学生以外(社会人、小中高生)もオンライン環境にすることが推奨された時
- 感染拡大で第三波が来たと判断された時もしくは致死率が現行より 5%程度増加した時
- 感染者数の推移が再び増加に転じた(=第3波が襲来した)と認められる時。
- 感染者増加が指数関数的になったとき？
- 緊急事態制限の時に出した指標をアップデートしてそれに従う
- 緊急事態宣言
- 緊急事態宣言のようなものが発令された時。
- 緊急事態宣言や、それに準ずる宣言等が発出されたとき。
- 緊急事態宣言時
- 構内でのクラスター発生時、あるいは、東京都の1日での感染者数が急激に増加した時。
- 国が緊急事態宣言を発令するなどの対応をとった場合。
- 再び緊急事態宣言が発せられるか、医学や疫学の見地から判断し対面式を行うべきでないと判断されるとき。もしくは、学内でクラスターが発生したとき。
- 授業が理由でクラスターが発生した時
- 詳しいことは言えないが、第一波や第二波程度の感染拡大であれば対面を止める必要はないと思う。

- 職員・学生同士でウイルスが伝染した時。
- 全国の感染者が 1 週間 1 万人に達したとき。
- 対面授業によるクラスターが発生した時
- 対面授業を受講する学生の中に感染者が発生した時。
- 大学関係者の感染が続く時(1 週間で 4 人など)
- 大学内でクラスター感染が認められた時。大学と直接関係の無い場での感染では濃厚接触者を除いて継続すべき。
- 都として緊急事態宣言が出たとき。 学内で感染者が出たとき。
- 都の感染状況及び医療提供体制の評価が「感染が拡大していると思われる」になった場合に要精査。実地受講生で集団感染発生ないし 1 週間で 5 人程度感染が確認されたら一旦中止。
- 都もしくは国家から緊急事態宣言が発令された場合
- 東京での感染者が、急激に増加した時 前週の 2 倍以上になったとき
- 東京都における感染者が増えたとき
- 東京都の感染状況が悪化している時、または駒場キャンパス内の学生、教職員の感染が多く見られる状況が続く時。
- 東大からクラスターが発生したとき。
- 東大での感染者数が爆発的に増えることが予想される時点。
- 東大生が関わるクラスターが複数認められたとき。

[Q24 感染が悪化しても最大限対面授業を継続することを希望する]

- (コロナウイルスに突然変異が生じる、医療崩壊が起こるなどして)若者の致死率が大幅に上昇した場合
- 「大学の対面授業の中で」大規模クラスター（100 人以上程度）が発生した場合。また、サークルや部活など、対面授業以外でのクラスターは対面授業が中止される正当な理由として納得できない。いずれにせよ、どのような状況になれば対面授業が縮小や中止、拡大されるのかの基準を示して欲しい(もちろん状況に依ることは理解しているので、明確であることは求めないが、いきなり中止と言われても納得出来ないかもしれないし、他の対面授業も実施しようと考えているのかを知りたい)。
- いいえ
- オンラインは不要である。
- クラスターが発生したとき
- クラスに少なくとも 1 人感染者が出た時。
- クラス内でコロナウイルス感染者が出たとき
- ステージレッドになった場合。
- マスクが不足するなど感染対策を取ろうにも取れなくなった場合。政府の緊急事態宣言が出された場合。

- 医療崩壊寸前の時
- 学内でクラスターが発生する事案が東大に限らず都内の複数の大学で見られた場合
- 学内での感染者が急増した時（具体的な数字は要検討）
- 学内の 1 学年の感染者が 20 人を超えた時
- 学内の陽性率が東京都内の陽性率を上回った時
- 感染拡大が欧米と同程度のパンデミックになったとき
- 感染者が 450 人を超えた場合
- 感染者数がアメリカほどの多さになったとき。
- 感染者数が過去最高になった時。
- 感染者数の指標は利用しないでほしい。
- 感染状況悪化しても大学生にあまり関係ない
- 緊急事態宣言
- 緊急事態宣言が再発令されたとき
- 緊急事態宣言が出されない限り、基本的には対面を継続すべき。
- 緊急事態宣言が出たとき
- 緊急事態宣言が出たら
- 緊急事態宣言が出た時
- 緊急事態宣言が出た場合。
- 緊急事態宣言が発出された時
- 緊急事態宣言が発令されたとき。
- 緊急事態宣言が発令した時
- 考えない。
- 再度、東京での緊急事態宣言発令。または、学内での感染者がある程度増えたら。（100 人くらい？）
- 再度緊急事態宣言が出た時。
- 指数関数的増加が有意に認められたとき
- 死亡率重症率病床使用率が急増または逼迫したとき、単純な感染者数の増減で考えるのはナンセンス
- 社会崩壊の危機が迫っているくらいでないと対面授業をやめるべきではない。
- 重症患者が増加したとき。
- 小学校や中学校も全て対面授業が禁止になったとき。
- 場合による
- 世界的な感染が再び拡大した時、GOTO トラベルなどが中止になった時
- 政府から非常事態宣言が出た時
- 他は授業を平常通りやっているので必要ない
- 大学内で感染者が急増している時（一日 100 名、症状ありの人が出る）

- 大規模な校内クラスターの発生、教員への感染拡大
- 中止すべきではない。
- 東京大学内で集団感染が発生したとき
- 東大で大規模なクラスターが発生したとき
- 東大生で感染者数が 10 人ほど出た時。
- 東大内での感染者が一学年につき、10 人を超えたら。
- 同じ授業をとっていた人の感染が発覚したときのみ。
- 非常事態宣言時
- 陽性率が 20%を上回ったら

[Q24 わからない・回答できない]

- 政府が移動などの自粛を要請したとき。
- 東京都の若年層における、経路不明の感染数が急激に増加したとき、あるいは、小中高の多くが再び休校となるほど全体的な感染状況が悪化したとき

[Q24 その他]

- 医師の検査、各種検査、入院等の医療処置へのアクセスに余裕がなくなったとき、あるいはそのような事態が予測しうるとき。ただ、各人の事情があることだから、教員や学生の自由裁量に任せる部分が大きくてよいと思う。
- 病床数占有率が危ななかつた場合。

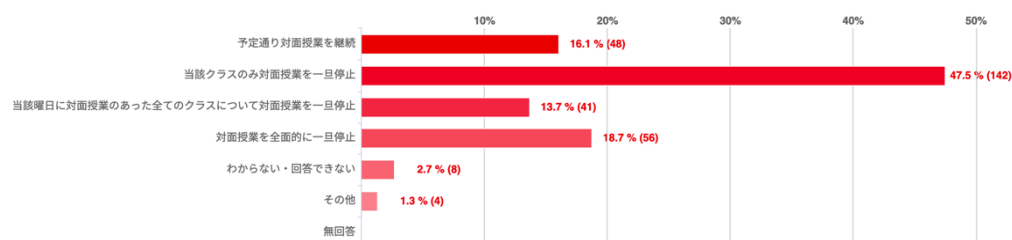
Q26 新型コロナウイルス感染症の感染状況が悪化した場合にどのような対応を希望されるか、まずは選択式の質問に大雑把で構いませんのでお答えください。

回答数：299

○概説

「当該授業のみ対面授業を一旦停止」が最も多くの回答者を集め、半分に迫る割合となった。

○グラフ



○その他

- その授業の履修者を 2 週間強制オンライン
- 当該クラス及び当該曜日に当該クラスと同じ教室/施設で開講されたクラスの対面授業を一旦停止
- 感染者の出席していた対面授業に出席していた者（以外、乙）が出席していたクラスまで 2 週間ほど停止、乙に感染者が出なかった（or 検査していなかった）クラスの対面授業は再開。
- 感染者が出席したクラス全てをオンライン化

Q27 その他感染状況が悪化した場合の対応について何かご意見等あればなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：34

○回答

- Q26 のときは、当該クラスだけ一旦対面を中止し、受講者は次（2 週間後）の授業まで出来る限り自宅隔離をしてもらい、できたら検査を受けてもらう。それができない場合、その生徒のみオンラインで受講。
- インフルエンザでも流行はするので、特に対策は必要ない。
- オンラインに切り替えたいと申し出れば、いつでも切り替えられるようにしてほしい。
- サークル活動等の規制はすべきだと思う。
- すぐにオンラインにできるようにしておくのが良いと思う。ゲリラ的に行うということです。
- そもそもオンラインにすべき。
- たった一人の感染からヒステリックに授業を形態を変更されても困る。
- ない
- なし
- マスコミやネットの反応に最も注意すべき
- わからない。
- 悪化した場合の対面授業中止は仕方ないと思います。
- 可能な範囲で教室など施設の消毒体制を強化していただきたい。
- 感染確認後次の 1 週間は相当大事をとり厳しく中止策をとる。次の 1 週間で集団感染の範囲が特定された 2 週目位から戻す。
- 感染者が一桁ほどの場合に過剰に騒がないようにすること。
- 感染症対策を最優先すべきだと考える。
- 感染状況が悪化した場合にどのような対応を取るかを、シラバスに明記してほしい。特に開講自体が取りやめになる可能性がある場合は、シラバスに明記するだけでなく教務課からのお知らせ等も利用して全ての学生が確実に情報にアクセスできるようにしてほしい。
- 教員や学生が希望した場合に、いつでも通学を中止してオンラインに切り替えられるようにしてほしい。
- 構内で感染者が出た場合はすぐオンラインに移行できるよう準備すべきだと思います。
- 実験だけは仕方ないので極力対面でやってほしい。他の科目は何かあればオンラインで十分代用が効くと思う。
- 少し悪化しても安易に中止するのではなく、本当に授業の実施に影響があるのか見極めてほしい。

- 食堂や生協は、近くに住む学生にとっては非常に便利であるため、状況が悪化したとしてもなるべく開けていて欲しい。今までのように、対面授業を行わない中でも食堂を開けていてくれたことは非常に評価する。
- 新型コロナウイルスは誰でも感染しうるので、感染者が確認されても過剰に反応はして欲しくない。
- 世論の反発・炎上があっても、それに対して毅然と対応すべき
- 他の学校や会社が対面活動を継続しているのに大学だけが停止するのはやめてほしい
- 多少の悪化でも対面の機会を減らすことは避けてほしい。
- 多人数の授業から段階的に打ち切るのが妥当だ。
- 対面で受けたいかどうかを各生徒が選べるようにすれば良いと思う。また、感染状況は誰にも予測できないものとはいえ、対面授業を停止したり再開したりとすると情報が入り乱れて混乱すると思う。
- 大学の方針の発表を定期的に行う
- 同じように感染する確率がみんなにあるから
- 萩生田さん辞めてください。
- 批判や世論の反発に遭う可能性が高いが、毅然とした対応をしてほしい
- 保健センターで検査を受けられるような体制を整えるとあったので、対面授業受講生で感染者が出れば、保健センターを活用してもらいたい。

②感染状況が改善した場合

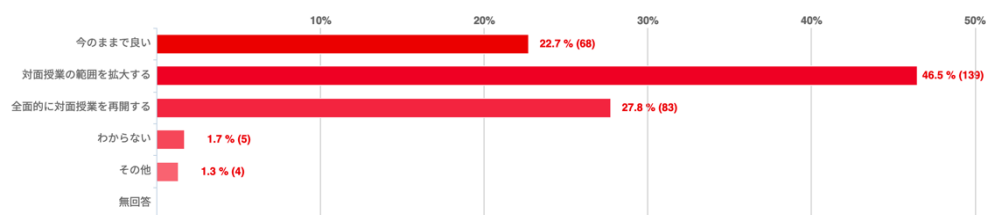
Q28 新型コロナウイルス感染症の感染状況が改善した場合にどのような対応を希望されるか、まずは選択式の質問に大雑把で構いませんのでお答えください。

回答数：127

○概説

なんらかの形で拡大を希望する学生は全体の7割を超えた。一方、「今のままで良い」との回答も4分の1に迫る勢いとなった。

○グラフ



○その他

- オンラインを1部残し、学生が再び上京したりする期間を設けた上で再開する。
- オンラインを続けて欲しい
- 感染状況が好転する見込みはまず無い
- 対面授業、その同時配信、配信のアーカイブ視聴、を全ての授業について選べるシステムの構築

Q29 対面授業の範囲の拡大を希望するとご回答された方にお尋ねします。
具体的にどのような科目を対面授業に加えるべきだと思いますか。

回答数：109

○回答

[Q28 対面授業の範囲を拡大する]

- 1 クラス 50~100 人以下の科目。 ディスカッションを含む科目。 実習を含む科目。 言語に関する科目。
- 2.3 クラス合同など、人数の比較的少ない科目。
- ALESS、FLOW、プログラミングや CAD を使う授業、グループワークを伴う授業
- FLOW、ALESA/ALESS、第二外国語初級・中級（インテンシヴ/会話）
- FLOW などの、少人数かつ発言を必要とする授業は対面にすべき。
- アレサ、フローが第一。次に、人数の少ない科目(例年の第三外国語とか)
- クラスごとで指定されている授業
- クラス指定の授業。
- グループワークを多く伴う科目。
- すべて
- ゼミ
- ゼミなど少人数かつ参加形式の授業。
- ゼミなど少人数のものを開講。構成員が変わりうる場合(1日に複数の少人数授業受講)は差し控えるべき。また実験などは構成員を変えない場合のみニコマ以上の受講を許すべき
- ディスカッションを含む授業
- ディスカッションを用いる授業。
- フィールドワークなどを含む授業。
- 英語、ディスカッションや意見交換を伴う一部の総合科目や主題科目
- 英語や初ゼミ等、グループワーク系の科目全般
- 英語中級、英語 1 列、初ゼミ、ALESA、100 人以下の総合科目
- 英語二列(ALESS/A、FLOW) 一部の主題科目
- 演習系の授業
- 外国語科目を対面授業にする
- 学生側がほとんど発言の機会が必要のない授業。
- 基礎科目、グループワークが多い科目
- 基本的には何でもよい。なぜならば、対面授業の最中の感染リスクよりも、むしろ対面授業の数が増えることで授業外での接触時間が増えることが問題だと思うから。
- 規模の小さい演習など

- 語学など
- 語学など、先生にもよるが、グループワークを積極的に行う科目
- 語学や実技系の科目
- 語学全般。授業のうち、人数的に大丈夫な範囲のもの。進学選択後の二年生を優先すべき
- 講義形式の授業すべて
- 講師が対面への意欲を示す全科目
- 参加人数が少ない科目。人との接触がない科目。
- 実験、外国語、体育
- 若く感染リスクの低い教師の授業
- 主に語学の授業。他にも、受講者が少ない授業。
- 主題科目・全学自由研究ゼミナール 英語中級 外国語初級(インテンシヴ)
- 受講者が少人数である(受講する学生の人数がある数値に達していない)じゅぎょう
- 受講者が少人数の科目。特に ALESA や FLOW、初ゼミなど、先生と一対一で指導を受けてもらう機会があるような科目。ただ、教授側に感染の不安があるならオンラインのままにできる制度も必要だろう。
- 受講者が多すぎず密にならない授業
- 受講者数が基準人数以下の授業。
- 受講人数が 50 人以下の科目
- 受講人数の少ない総合科目
- 集中講義
- 初年次ゼミナール、ALESA、FLOW
- 初年次ゼミナール、ALESS、ALESA、全学体験ゼミナール、全学自由研究ゼミナール
- 少人数ゼミ、実習など
- 少人数で行われる総合科目なども、対面にしてほしい。
- 少人数の授業
- 少人数の授業
- 少人数の授業 主題科目 語学 ディスカッションなど、コミュニケーションが中心となる授業
- 少人数の授業、コミュニケーションが必要な授業
- 少人数形式の授業や、体験を重視する授業、第三外国語として開講される L 系列
- 少人数授業。たとえば、英語・L 系列・ゼミナールなど。
- 数学
- 数学、物理を含む、授業外で生徒間での議論が行われうる授業など
- 数学科の授業
- 数理科学基礎や法などの学びの根幹を担う科目
- 生徒間の交流(グループワーク・ディスカッション)のある授業 密集回避可能な実習
- 生徒同士の距離が 1m 以上を保てるような授業

- 全て。
- 全ての科目において、対面授業は学生同士の交流など様々な観点で良い影響を与えるものだと思うので、科目の種類によらず対面授業に加えると良いと思うが、特に実習系科目を重視すべきだと思う。ただし、どのような科目でも、（たとえ対面授業が主流になったとしても）全て録画を残したり pdf を配布したりしてオンラインでも受講可能なシステムにするのが最も望ましいと思う。
- 総合 L 系列の科目。可能であればさらに隔週ではなく毎週対面授業を行なってほしい。
- 総合科目
- 総合科目内で受講者数が多くない講義形式のもの
- 即ち、第三外国語やゼミ、教員の希望する科目。大教室で講義するような種ものは必ずしも必要ないでしょう。
- 多人数でない授業
- 大講堂など、生徒数が数百人規模に及ぶものを除く授業。
- 大人数でない授業すべて。
- 第三外国語や少人数のゼミ等
- 発音練習を含む語学系の授業、ディスカッションやプレゼンテーションなど他の受講者とのコミュニケーションを要する授業、実習等を含む授業。特にこれらのうち受講者数が少ないもの。
- 発表、ディスカッションが必要な授業。
- 板書が中心の講義や小テストがある講義（スライドを使用している講義などはオンラインとの差異が少ないと思われるから）
- 比較的受講人数が少ない科目や語学
- 比較的少人数の授業
- 必修の基礎科目などクラス指定があり最大人数が決まっている科目
- 履修者の数が少ない授業。

[Q28 全面的に対面授業を再開する]

- 1人で勉強することが難しいため、できるだけ多く
- L 系列の語学科目（特に会話）
- クラスの人と会える基礎科目を中心的に対面で行い、少人数の総合科目等も積極的に対面授業に移行して欲しい。
- クラス指定の必修科目
- クラス指定科目
- ゼミなど特に拡大して欲しい
- ディスカッションの科目、主題科目や総合科目
- ほぼ全て
- 基礎科目

- 基礎科目と主題科目
- 基礎科目の英語、人文科学、社会科学から全体に広げる
- 基礎科目の毎週対面授業実施 できる限り主題科目や総合科目も
- 基礎科目全て
- 基本的に全ての科目で対面とオンラインを自由に選べるようにしてほしい。
- 講義形式の、大教室での授業。天井が高く、空間が広いこと、学生の発言も少なく飛沫感染をある程度防ぐ区とができるため。
- 実験、少人数のもの全て
- 受講者 100 人未満の全ての科目
- 準必修以外全て
- 少人数クラス
- 少人数の語学、実験。学科や専修等に限定された授業。
- 全て
- 全て
- 全て。
- 全て。一部オンライン、一部対面はややこしくて好ましくない。
- 全部
- 全部
- 総合科目以外の少人数の科目全て
- 対面授業でない基礎科目
- 大人数での講義形式をとる授業以外すべて。
- 討論式のゼミ、少人数（30 人以下）の授業

[Q28 その他]

- 実験
- 実験、演習、議論

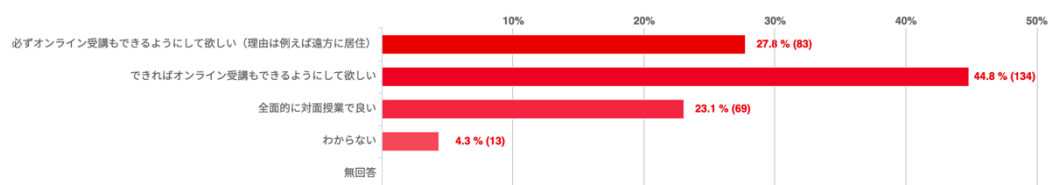
Q30 対面授業の範囲を拡大した場合、オンライン受講との併用についてご意見をお聞かせください。

回答数：299

○概説

全体的には回答はばらけたが、「できればオンライン受講もできるようにしてほしい」と答えた割合が最も多く 4 割強であった。

○グラフ



Q31 Q30 の回答の理由、その他感染状況が改善した場合の対応について何かご意見等あればなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：64

○回答

[Q30 必ずオンライン受講できるようにしてほしい（理由は例えば遠方に居住）]

- 2年生は、対面授業が急に始まって、下宿先の駒場近くに住んでいるため本郷に通うのが遠くなってしまい、すぐに引っ越すのが難しいため。
- オンラインが使える状況も確保しつつ、可能な限りオフラインにしてほしい
- オンライン授業も継続してほしい。
- コロナウイルスにどうしても感染したくない人やその他諸々の理由で学校に来たくない人もいるだろうからそこには大学ができる範囲で配慮すべきだと思う。
- コロナウイルスは高リスクの人にとってはとても危険なウイルスだと思うので、家におばあちゃんなどがいる人も含めて、自粛したい人はオンラインで受けられるようにすべきだと思う
- そもそもマスプロの授業を対面で受けるメリットは旧来からなく、オンデマンドで十分であること オンデマンド化で生じた自由時間でコロナ後のキャンパスライフは充実することが考えられること
- 一年生ということもあり、当初はオンライン授業の質に不安を感じていたが、S セメスターを通して、本学のオンライン授業の質は非常に高く、また、対面授業よりも身体的負担がかなり軽減されたと思う。（課題や自主学習をする余裕ができ、睡眠時間を確保できるなど）その反面、同級生との交流はほとんどなかったが、その分、初年時ゼミナールや、FLOW など、交流できる授業には意欲的に参加できた。個人的には同級生との交流は授業外で確保でから良いと思うので、感染が収束した後もオンライン授業の選択肢も残していただきたい。
- 遠方に居住している学生が多数いることを考え、オンライン授業を続ける方が良いと考える。感染状況が改善しても気を抜くと一気に悪化する可能性が十分ある災難なので、対面授業の拡大は容易にしないでほしい。また、状況を見ながら柔軟に対応する事は、全体的に効率的であると思うが、遠方に住まいを移した学生にはこの先を予想することができず、住まいをどうすればいいのかなど、不安かつ負担になるので、コロナから安全な社会になるまでは、対面授業を行うとしてもオンラインでも無理なく授業を受けられるようにしてほしい。
- 遠方の人がいきなり対面開始についていけるとは思えないので、慎重に判断してほしい。
- 下宿を解約したいため。
- 学生の金銭状況への配慮が足りない。急な不必要な出費は、生活費から全てを自活している学生にとって痛手である。並びに、奨学金も減少した家庭が対象だが、今年入学でバイトを始めた学生は応募の対象外であり、仕送りの全くない学生を本学は一切考えていない。格差問題を語るこ

とが多い本学が、目の前の貧困については完全に無視するどころか、痛手を加えるのは皮肉にしか感じられない。

- 学生本人や同居人に基礎疾患がある場合や、大学近くの親戚宅に下宿して学生生活を送る予定でいたがその親戚が高齢で重症化リスクが高いため同居することができなくなり、金銭的に他の住居に移ることもできなかったため実家に戻らざるを得なくなった場合（自分のことである）など、学生により様々な事情があると思う。たとえ少数派であってもそのような問題を抱える学生が不利益を被ることがあってはならないので、必ずオンライン授業も受講できるようにするべきだと思う。また、オンライン授業の良い点として、通学時間が要らないため科目選択の幅が広がる、復習がしやすい、（感染症に限らず）体調が優れない時でも受講しやすい、などがあり、これらは従来であれば存在したかもしれない学生間の事情の違いによる不公平さを是正するのに役立つと考える。よって今後感染拡大状況の如何によらず、（巡検等どうしても不可能な場合を除き）全ての対面授業と並行してオンライン授業を用意すべきだと思う。
- 感染の不安は拭いきれないから
- 基礎疾患を持つ学生など一般の学生より感染時のリスクが高い人が、感染リスクの残る状況で対面授業を強要されてはならないと考える。
- 急に移動するのが難しい人も必ずいるから。感染状況が改善しても、数学や理科(座学)などの大人数で受動的な授業はオンラインでして欲しい。こちらの方が質問・意見がしやすいと感じるので。
- 個人的に対面授業よりオンライン授業のほうが理解度が高かったから
- 午前はオンラインで午後は対面併用だとすごくうれしい
- 今回でオンライン授業のやり方が大体わかって、メリットも出てきたのに、やめてしまうのは無駄な気がする。また、感染症の不安やそれ以外の理由で対面授業に出たくない人にも学習の機会は与えられるべきで、多様性を重視するという名目を掲げている以上、選択の自由は尊重されなければならないから。
- 持病があるとか、高齢の同居人がいるとかいう場合、多少感染状況が改善しても通学には不安が残ると考えられる。
- 持病などを抱えていて、コロナウイルスに感染した際の危険性が非常に高い人もいると思う。オンライン授業を希望する学生の意思は、コロナウイルスが完全に終息するまで尊重されるべきだと思う。
- 授業を欠席したことによる不利益を極力抑える為。
- 世の中の状況が改善しても、緩めたら東大内で感染が拡大するかもしれないという恐れがあるので、とりあえず今年度中は対面授業を強要しないほうが良いと思う。
- 地方から上京するのが難しい人もいると思うので
- 通学時間が非常に長いため、オンラインで受講できるとありがたい。
- 突然対面を拡大されても、住居を整える時間が足りない。ある程度きりのいいタイミングでされなければ準備できない。

- 濃厚接触者となった場合、外出できずオンラインがないと授業を受ける術がなくなるから。

[Q30 できればオンライン受講もできるようにしてほしい]

- いきなり全てを対面授業にするのは、人々がどんな行動をするかなど予測不明な点が多いので、リスクが高いと思う。だんだん範囲を拡大する中で、必要な対策があれば追加していくべきと思う。
- オンラインだったものが対面に変更されると、通学時間などの生活リズムや交通費などの計画に乱れが生じるため、なるべく早く告知してほしい。
- オンラインという選択肢も残す必要があると考えます
- オンラインの良さを生かすべきである
- コロナ禍のような突発的な危機的状況に柔軟に対応できるように、オンライン受講という選択肢を残しておく方が良いと考えます。
- その時の感染状況を鑑みて各自で判断ができるよう選択肢を増やしてほしい
- どの程度改善すれば対面授業が拡大されるのかの大まかな基準も示してほしい。
- ない
- 一般的な学生生活を即解禁すべき
- 感染が再び増加傾向になりうるので、柔軟な対応をしたい。
- 感染状況が改善した場合にどのような対応を取るかを、各授業ごとシラバスに明記してほしい。
- 講義形式の授業については対面でもオンラインでも受講できるようにするのがいいと思った。対面で受けている授業を後ろからとってライブ配信するなど
- 私はとにかく対面授業をしてほしいという立場だが、考え方は人それぞれであり、様々な人のニーズに応えられる形で授業が行われることが望ましいと考えるため。
- 試験については基本的に対面でお願いしたいです
- 時間的な工面がしやすい
- 自身の体調に不安を感じた場合に、オンライン受講可能であれば登校を控えるという判断が容易になるから。これは感染拡大の抑止に貢献すると考えられる。
- 自分としては、ひとまずこの授業形態で授業を受けようと思うから。また、できる限り多くの学生の声に応えるために、必要に応じて対面授業を増やすことも考えてほしい。
- 自分は対面授業が断然よいのだが、持病や持っているまたは家族が患っている人への配慮は当然必要だ、。
- 質問がしやすいから。
- 集中講義など、開講時期が遅いものに関しては対面式に変えることはあって良いと思うが、基本的には切り替えに伴って混乱が発生すると思うので、変えるべきではないと思う。
- 状況は人によるから
- 親の希望などで身動きの取りづらい学生も必ずいるため。

- 身近に重篤化のリスクが高い人がいる場合には通学を不安に感じる学生もいるであろうし、オンライン化で利点が多いと考えられる場合については元に戻す必要がない。ただ教員の負担もあると思うので、可能な限りで検討されたい。
- 生徒、教員ともに様々な準備が必要であり、対面授業開始後に再度、感染状況が悪化する可能性もあるため。
- 全員が都合がつくかどうかはわからない
- 体調不良時に家で受講できるから。
- 対面授業で得られるキャンパスライフや学びも重要だが、この半年で整備したオンライン授業の環境を放棄するのはもったいないと思うから。
- 地方勢への配慮
- 通常の講義形式であれば、オンライン配信を対面と並行して行うことはそこまで難しいものではないと思う。

[Q30 全面的に対面授業で良い]

- オンライン授業は疲れるから
- 個人的には対面が良いが、オンライン受講を好む学生はオンライン受講を選択できるようにすればさらに良いと思う
- 今の状況下でも多くの場所で対面の活動がほぼ問題なく行われているのだから、ましてや状況が良くなったのなら感染への警戒を緩めなければ全面的に対面を行なっても問題はない。
- 今はとにかく大学に通いたいので全面オンライン希望です。もう家の中で閉じこもって一日中パソコンに向かう日々は嫌なので、できる限り対面授業を再開して普通の大学生の日常を経験したいです。
- 対面授業を増やして欲しい。
- 普通に大学生活送らせて
- 本来弊学の学生は対面で授業することが基本であるので、十分早い段階からお知らせすれば全面的に対面授業にしても遠方の居住者も対応できるはずである。

[Q30 わからない]

- 完全に一方向(教員が喋るだけ、生徒間交流なし)の講義はキャンパス内の密集防止のためコロナ終息までオンラインを維持すべき。
- 大学側が感染リスクをできるだけ下げられるような対策をとっているという前提にあっても、オンライン受講を希望する人の評価基準が他の人と違ってきてしまうことがありそうのため。

【課外活動について】

(説明)

現状、駒場構内の運動場などでの課外活動は、許可制での再開となっています。一方、学生会館をはじめとする屋内の課外活動には引き続きかなりの制限が加えられています。

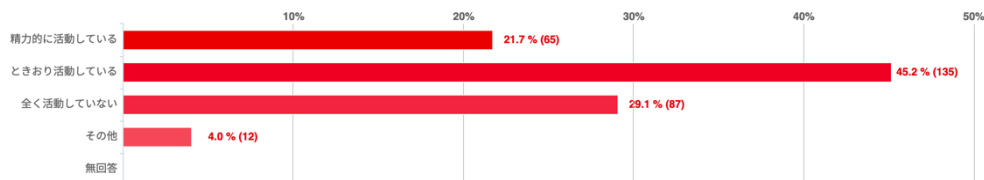
(参考)

- ・ 駒場構内の課外活動施設全体の状況：[駒場構内の課外活動施設利用の再開情報（学部サイト）](#)
- ・ 学生会館キャンパスプラザの状況：[学生会館・キャンパスプラザ公式サイト](#)
- ・ 学部の課外活動に関する方針：[課外活動の再開について（7月27日学部発表）](#)
- ・ 全学の課外活動に関する方針：[課外活動再開に向けての本学の方針について（全学サイト）](#)
- ・ 学部長名義での課外活動に関する注意点：[課外活動の再開にあたっての注意（7月31日学部長発表）](#)

Q32 現在における学内の部・サークルでの活動状況についてお答えください。

回答数：299

○グラフ



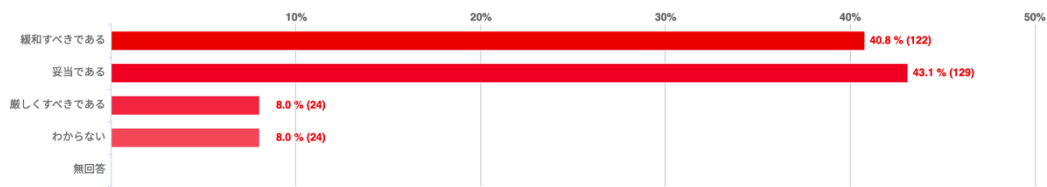
Q33 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、課外活動に関する現在の規制についてご意見をお聞かせください。

回答数：299

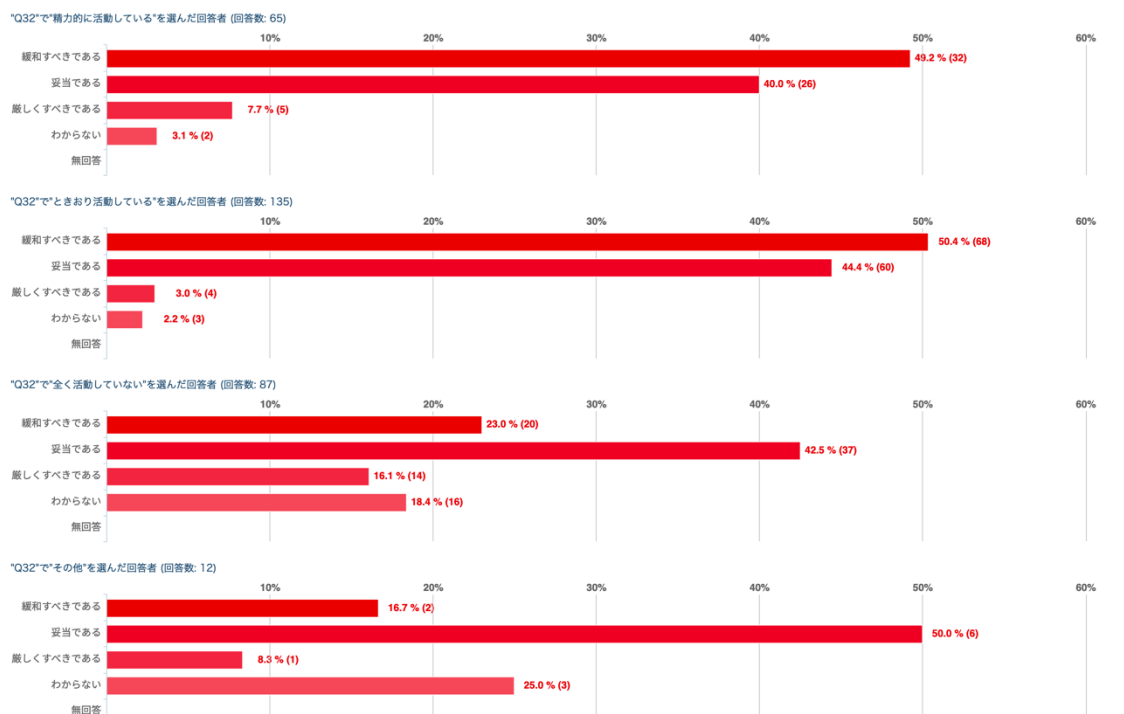
○概説

「妥当である」と「緩和すべきである」が拮抗する結果となった。一方、「厳しくすべきである」回答した人も 20 人以上（全体の 8%）に上った。Q32(課外活動の活動状況)とのクロス集計では、課外活動にあまり関与していない学生で特に「妥当である」との回答は見られた。なお、学年とクロス集計を行った結果、1 年生と 2 年生とで顕著な相違は見られなかった。

○グラフ



○Q32(課外活動の活動状況)とのクロス集計



Q34 Q33 の回答の理由やその内容をなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：113

○回答

[Q33 緩和すべきである]

- インカレサークルは今のところ学内で活動できないから。
- オンラインでの課外活動には限界があるから
- コロナが卒業までに好転するとはとても思えないため。好転しなければ大学生活を十分に楽しむことができるとは言えないから
- サークルとしてリモートで活動することは可能ではあるものの、新歓やメンバーとの連携など、対面でないとできないことも多くあるため。
- サークルなどの学生交流は大学生活の重要な側面であり、大学で得られるそうした経験を安易に奪って欲しくないから。
- サークルにより活動の偏りが大きいから。
- サークルにより活動状況に差が出るのは不公平だと考えるから。
- サークルの所属はしているが、全く活動できておらず先輩や同輩との関係も希薄だ。自分が2年生になり指導する立場になったとき、このサークルがきちんと動くかわからない。
- サークルは交友関係を広げるうえで貴重な場だから
- サークル活動もできない。地方出身なので友達もいない、できない。精神的につらい。
- まだ一度もサークル練習に参加したことがなく、一年生も半分終わるのに寂しい。夏休みはサークルを楽しむ予定だったのと思うととてもやりたいため。
- 一年生をもっと練習させてあげたい。駒場内での活動ができないと部活が大幅に制限される
- 一部の非常識な行動をとる学生たち(がいる可能性)のせいで、全学生が不利益を被ることはあってはならない事態
- 飲食を伴わない活動は、構成員の体調、マスク着用気をつければ安全に実施できるはずである。駒場祭委員など2年時までしか活動できない団体では残された時間は少なく貴重である。できるだけ通常通りの活動を行わせてほしい。
- 運動会に参加するときに、部をまたごうと思うと2週間間隔を空けないといけないのがつらい
- 課外活動こそ直接人と接して活動することに意味があるから。
- 課外活動はオンラインでは不可能 課外活動も大学生活の一環 外部施設を使わざるを得ず、交通費や施設使用費がかさみ、出費が多く、行動範囲も無駄に広がるので困っている。だからどうしても駒場の施設を使用させて欲しい。
- 課外活動は大学に欠かせないもの。感染者数や、高校、中学校等の動向を見るに、もっと拡大するのが妥当かなと。

- 課外活動をしたいです!!!活動できない理由がまったくわかりません。部活がないと練習もできない環境に置かれています。はやく活動したいです!!合宿もしたいです!!
- 外で施設を借りる運びになると費用が嵩むから
- 外部の人が全く入れないのは、活動に支障がある。
- 学生の出費など考えると、学内施設をもっと使えるようにしてほしい。
- 学生会館が使えないことで、サークルの根幹となる活動が一切できていない
- 学生会館が使えないのは一部の団体にとって致命的、入構する人間の把握をきちんとやりつつ再開するべき
- 学生会館が部室として開かないのは音楽系サークルにとっては非常に厳しい状況です。オンラインではできないものの一つなのです。特にセッションや合奏を活動の主としているサークルにとっては致命的です。
- 学生会館で活動したいから。
- 学生生活を楽しまたい
- 学生同士の交流は非常に重要であるから。
- 学内での課外活動をもっと緩和してほしい。特に、学生会館は厳しいルールを運用した上で部室での活動を認めて欲しい。
- 楽しまたいから
- 楽器演奏に関して、2mの距離の制限は過剰。実際に多くのプロオーケストラが奏者はもっと近い距離で演奏会を開いている。その根拠になる調査も出ている。
- 感染リスクに関係なく特定の部活だけが認められているのが現状であり(運動会の一部の団体はリスクが明らかに高いにもかかわらず体育館やグラウンドの使用を認められている)、非常に不公平である。
- 感染状況が収まりつつあるのに制限がそのままであるのはおかしい。
- 感染状況も落ち着いており、そもそも日本においては20代以下の死者が基礎疾患を持っていた一人しかいないので規制している理由がさっぱり分からない。感染したくない等の理由がある人が自主的に活動に参加しない等の対策を取れば良いと思う。
- 規模等のコントロールが授業に比べてしやすい
- 駒場キャンパスをもっと使わせてほしい。
- 駒場ではまだほとんど何もできない。
- 駒場で練習できず外部施設での練習が続き不便です。お金もかなり取られています。駒場の練習施設のインカレへの貸し出しもしてほしいです。
- 現況下では、新入生が入りづらい
- 現段階で課外活動が解禁されてはいるが、校内の課外活動施設は空いていないため外部の練習施設に頼らざるを得ず、出費がかさんでいるため。
- 高校や中学では部活動も始まっている学校も多いのに大学だけ規制はおかしい(逆に、それらの学校で行っている対策や飲み会の規制等は行うべき)

- 合宿の禁止は、合宿を主な活動としているサークルにとっては致命的である。国として旅行を推進している現状に鑑みて、A セメ以降では緩和すべきだと思う。
- 私は一年生ですが、サークル等に一切関わっておらず、その場で得られるであろう人との出会いが欲しいから。
- 自粛のみの生活では、精神的に疲労してしまう
- 秋に新歓を開いて欲しいから。
- 出費など考えても、学内の施設をもっと使えるようにしてほしい。
- 新歓活動に制限があり、1 年生は例年では入れるはずのサークルに入れていない人も多い。自分自身はサークルに所属しているが、学内施設を使えないことは不便。
- 新型コロナウイルスは大したことがないことが分かっているのになぜ大学生だけ制限されているのか
- 人数制限等でそもそもあんまり参加できない マスクをつけて運動してもあんまりおもしろくない
- 数少ない交流の場であると感じるから、自分も東京に戻り次第参加するつもりである。
- 他の産業がいいなら構わない
- 対面ができなくて友人が増えないので、ときたま行われる Zoom が気まずい時間にしかならず、サークルを心の拠り所としたり気晴らしにしたりすることができないから。
- 大学でしたかったことが全くできていないから。
- 大学構内が使えなくても、他の場所で活動をしている。 それでは、大学構内よりも感染リスクが高まる。 大学の保身だけでなく、学生の感染リスクが低くなる方法を考え、大学の施設の利用を許可して欲しい。
- 大学施設が使えない場合、外部施設を利用するため、費用がかかり、さらに大学施設よりも環境が悪い。それならば、大学施設を条件付き(1 日〇団体までなど)で使用させてもらい、感染対策をしっかりとる方が良い。
- 大学生以外の課外活動の緩和がほとんどなされているため
- 中学や高校で部活動など学生活動が行われているのに、大学で行えないことの意味がわからない。
- 特性上、サークル活動は実習的な活動や他のメンバーとのコミュニケーションを多く含むことが多い。現状オンラインで活動しているサークルの中にも、かなりの不自由を感じているところも多い。
- 入ったものの全く活動していないサークルがあり、不安だから。
- 部活動を制限しているのは大学のみで小中高ではしていない。
- 部室での活動が主な文化系サークルの命脈は既に風前の灯である。現二年生の多くが本郷に移る来年から部室が開放されたとしても、既に多くのサークルは新しい世代の会員を失っており、さらに二年後には消滅しているだろう。
- 部室の設備が使えないので何もできない
- 満足に活動できていないので

[Q33 妥当である]

- ある程度感染状況が落ち着いてきた中で、感染対策を講じた上で、一部の活動を許可するのは妥当であるから。
- オンライン化により(人間関係には影響はあるが)平時の活動内容自体は大きな支障は生じてなく、今年度こまではなかったが今後ありうる特別時の物品を要する活動についても学生会館の部室に物品出し入れの出入りが認められていることで現時点では大きな支障がないから。また、サークル活動を急いで緩和すると外部の施設や他の大学との人の移動が増え感染リスクが増大するから。
- クラスタ発生時の社会的影響を考えれば、現状が妥当であると思う。
- サークルにもっと参加したい気持ちはあるが、サークル内で感染者がでてしまったら元も子もないと思うから
- サークルの活動そのものは三密を警戒すれば問題ないと思うがその後の飲み会などは感染のリスクも上がり自粛すべき。
- サークルは飲み会など感染リスクの高い活動を行う頻度が高いため
- サークルを基準に拡大すれば学校にも影響がでるから
- サークル活動はともすれば遊びと見られる面があり、万一感染があった際に授業内のそれより大きな批判を受けることが予想されるから。
- 課外活動の感染リスクが相対的に高いのは事実。ただ、課外活動後の飲食の方がむしろ怖く、その辺りを制限することで同意ができれば、もう少し緩めても良いのではないだろうか？
- 課外活動の規制を緩めるよりも、対面での授業を再開することの方が先決だと思う。ほとんどオンライン授業という現状では、課外活動に規制がかかるのは当然。課外活動よりも、まずは対面授業の再開に努力してほしい。
- 課外活動よりも大学の授業の方が優先されるべきであって、課外活動よりもの制限を緩和するくらいなら対面授業の選択できる範囲を増やせたほうが良い。
- 海外の事例では三密を無視したパーティなどで感染が増加し、このようなクラスターは日本でも再び見られるようになってきた。課外活動はクラスターを引き起こしかねない。
- 完全オンラインでも十分活動できていると感じています。
- 感染拡大への対策を講じられている範囲においては課外活動を行うことも是認できる。心身の健康にとって重要な役割を果たしうる。一方で、学生の活動は学内にとどまらず広く社会に影響を及ぼしうるので、大学として積極的に活動を推奨するには慎重になるべきでもあるだろう。
- 感染状況を考えると、都内での活動はまだある程度の制限が必要だと考えるから。
- 感染対策が適切に行える
- 感染対策として現状ほどの対応が必要だと考えられるから。

- 感染対策の面で、大学生活の中で一番感染リスクが高いのは課外活動であり、課外活動と感染対策の両方を行うために、必要な制限を検討しながら課外活動を段階的にすすめていくことは必要。
- 感染対策をきちんと取れないなら活動すべきでない
- 規制しつつ行いたければ行える状況だから。
- 現在大学ができる最大限に緩和された活動をできていると思う。これ以上緩和すると感染拡大を招きかねない。
- 仕方がないから。
- 私の部活は今は普段通りに活動できていると思うからです。サークルも最近は増えてきていると思います。
- 治療法・ワクチンが開発されたわけではなく、3月から状況は変わっていない。医療関係者への負担を考慮すべき。
- 若者の重症率がかなり低いことを考えると、現在の課外活動への規制具合は妥当かなと思う。ただ、80代の祖母と同居しているため部活動に参加したいけど怖くてできない、というジレンマを抱えている。
- 集団感染の事例を耳にした範囲では確認していない為。
- 制限は必要。
- 他大学の規制などを聞く限り、東大はかなり緩和されている方だと思う。
- 対策を取ればあまり危険にはならないと思うから。親睦を深めることもサークルの効果の一つだと思うが、規制が厳しい中だと作業するだけになってしまうから。
- 大学生は活動範囲が広く、何らかの制限がないと感染が広がりかねないから。
- 団体も感染状況には気を配るべきだし、この上で宿泊を公認してほしいとは言えない。
- 万一課外活動で感染が拡大し、「東大サークルでクラスター発生！」などのニュースが出ると、東大のみならず我々構成員も社会的な批判の対象となりうるから。
- 遊んで感染拡大しそうだから

[Q33 厳しくすべきである]

- (特にインカレでは)サークル後に毎回飲み会を開いているところが多く、感染リスクが非常に高いから。またインカレの他大の構成員は、東大生のように e-learning などによるコロナへの正しい理解があるとは限らないから。(それにより前述の飲み会への危機意識が無いということも考えられる)
- サークルでは気が緩み、大きな声が出てしまうこともあるかと思います。感染拡大防止の観点から、精査を通過したごく一部の活動のみ許可すべきだと思います。
- サークル活動によりクラスターが発生したら週刊誌沙汰になるから。
- 課外活動には「活動」の前後に人が集まる時間があり、その時間では課外活動の指針が守られていないと感じる(「活動」後に食事に行くなど)。また、学生の本分は勉強であるにも関わらず対

面授業が再開できていない状況下で課外活動だけ行うことができるというのは個人的に不満が募る(学生全体としてどのような考えが一般的かは分かりませんが)。

- 学生は気が緩むと際限なく自由にしそうであるし、会社などと違ってサークルに複数入り行き来することもあり感染拡大のリスクはその他の人と比べて大きいと考える。
- 授業よりも課外活動の方が制限が緩くなっており、授業第一である教育機関として矛盾しているから。
- 世間的に厳しい現状で部活やサークルなどをやっている場合ではない。注目度の高い東大こそ厳しくコロナに対応すべきだ。
- 対面授業はほとんどできないのに課外活動ができるのはおかしい。優先順位が狂ってる。
- 対面授業を実施せず課外活動の実施を許可するのは全くもって意味不明である。
- 大学の一番の目的は学問であり、対面授業もほんの一部でしかできないような状況で、課外活動を再開するという決定はおかしい。課外活動でクラスターが発生し、批判が殺到して、対面授業までできなくなったら、本末転倒である。

[Q33 その他]

- サークルや部活に参加していないため。
- それぞれのサークルの活動の実態が分からないから。
- どれくらい感染が伝播しやすいのかわからない
- 課外活動が多様で一概に述べられない
- 参加してません
- 都内の感染者数は 5 月の緊急事態宣言前の水準にあるが、政策的にはマスクや自粛の推奨がなされているだけで、概ね平時通りの経済活動が行われている。大学だけが実質緊急事態宣言下と同じ状態にあるのは、リスクを避けた慎重な判断だと思われるが、大学生の世代は地震が重篤な症状に陥ることは少なく、また対面での人との交流が学生生活の基盤をにあるということもあり、感染対策を徹底すること、また感染者が出た場合には即刻感染経路を辿って関連する活動を中止すること、などを条件に入れば、課外活動はもっと再開しても良いと考える。

Q35 以上の質問のほか、課外活動についてご意見ご要望があればなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：35

○回答

- クラスターの定義は5人以上の集団なので、4人以下ならば活動制限を緩めてもいいのでは？
- これ以上制限を続けても、学生は学校外で活動を再開するので意味がないと思う。
- サークルについて知ることができる機会が欲しい
- サークルに感染防止策の詳細なガイドラインや感染防止用のグッズを購入するための援助を広く与えて欲しいと思います。秋新歓についても積極的に支援するべきです。一年生の交友関係が非常に狭いのはかわいそうだし、駒場のサークルは2年が運営してることも多く、各サークルの継承・伝統に大きなヒビが入りつつあります。瀕死の文化です。
- せめて、新入生の勧誘だけでもしてほしい。先輩との繋がりが欲しい。
- ない
- マスクを外す運動部などの活動は人数制限を継続すべきだが、マスク着用のもと接触の少ない活動は制限を緩和すべき。
- 課外活動ができるだけでもありがたいと思う
- 課外活動の種類に応じた緩和策を講じるべき。（屋外のスポーツ→大幅に緩和 屋内の活動→あんま緩和しない、みたいな）
- 学生会館とキャンパスプラザの使用を早急に解禁すべきである。校内での課外活動ができないのはとても不満である。
- 学生会館の利用を再開しないとそこを活動の拠点とする多くの団体の負担になる。学生会館で済んでいたものが毎度外部施設を取る必要があるとなるとかなりの額になる。
- 活動が再開されているのに、コロナが怖くて参加していないため、置いていかれている感じがする。一年生は知り合いも少ないし、今後の人間関係に問題が生じそう。
- 感染対策はきちんと取るので、駒場のコートサークルに開放してください。お願いします。
- 緩和を進めていただきたいです
- 規制を、緩和してほしい
- 駒場のコートにおいて、1面に入れる人数が少な過ぎる。
- 駒場の建物を使えるようにして欲しい
- 現在の規制では本学の構成員しか大学内での課外活動を行えない状況ですが、他大学の学生も参加しないと活動を行えないサークルもあり、そのようなサークルは未だに活動再開を見合わせている状況であるため、学内の団体に所属する他大学の学生の入構も許可するようにして欲しい。
- 現状ではインカレ・屋内サークルについてかなり厳しい状況にあると言わざるを得ない。感染防止の観点から制限が強くなるのは理解できるが、この状態が続くと新歓の面で屋外系サークルや

インカレでないサークルとひじょうに差が付けられてしまう。問題は屋内系サークルの活動再開見込みを一切大学側が発表しないことにあると思う。たとえば A セメスター中は再開を許可する見込みがないのならそれを発表して欲しい。少なくともここまでは許可しないというような予定を出してくれないとまったく今後の方針が立たない。

- 広い場所や換気できる場所、少人数ならば十分課外活動はできると思う。もう少し具体的な対策方針を作らないと、拡大解釈して危険な行為をする団体があるかもしれない。
- 構内の施設の使用を緩和してほしい
- 実情として、必ずしも大学の方針に従っていない交流は行われていると思う。それに関しては改めて検討する余地があると思う。
- 小規模サークルでネットでの宣伝力がなく、対面サークルオリエンテーションがなくなったことで新入生が自分のサークルを知る機会が減り、新歓に影響が出ている(現時点で入部した 1 年生は 1 人のみで、そもそも問い合わせがあったのもその 1 人のみ)。小規模サークル宣伝の対策を考えていただければありがたい。
- 状況を分かりやすくして欲しい
- 新歓は無理ですかね…
- 責任を負える範囲(東大生のみ)を原則入構許可としてその他の大学構成員は許可を見送るべき
- 他大の生徒がキャンパス内で活動することを認めるべきではないと思う。東大の内部で発表された規則が他大まで浸透するとは思えず、感染原因として東大生よりリスクが大きいと予想されるから。
- 他大生も許可を取れば学内に入れるようにして欲しい。
- 大学が制限する必要はない。各自適当に行動できる。
- 単位認定に支障が出る限りにおいては、課外活動の制限はやむを得ないと思う。何よりもまず単位認定を優先して欲しい。
- 特にないです。
- 特になし。
- 普通に活動させて
- 来年の 4 月まで全面禁止などの期限付きの活動禁止を宣言して欲しい。いつ再開するか分からないと、用意などで無駄がでる。

Q36 A セメスター中における課外活動のあり方について、こうすればよい、こうして欲しい、ここは良くない等のご意見をなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：33

○回答

- 2年生になっても未だに新入生のような立場でサークルを行うようなことにはなりたくない。
- インカレサークルは現状学内で活動できないので、インカレサークルの構成員で他大学の生徒が学内に入れるようにして欲しい
- オンライン上などでの秋の新歓活動のサポートがほしい。
- ガイドラインがあまり親切ではなかったと思う。活動内容によって気をつけるべきことは異なり、それぞれについて ・実行可能で ・徹底した 感染対策の啓蒙が望まれます。実行可能というのは、手続き等の煩雑さをあまりに増やすべきではないということです。徹底した、というのはナアナアになっていないかチェックしたり、サークルの代表へ研修を与えるなどです。課外活動、とは授業の次に重要なもので、それよりか弱く、曖昧な伝統によって生きている存在なのです。どうか積極的支援をお願いします。
- キャンパスプラザなどで同じ部屋を使いまわさない(除菌や換気をしっかり行える時間や空間的間隔を空けるなど対策をすべき。一つの部屋に入る人数を制限すべき
- このまま A セメスターも外部施設を利用するのは、金銭面でも衛生面でもよろしくないと思う。大学施設を使わせてほしい。
- そもそもサークル活動を見ることができてないのでわかりません
- なるべく対面で活動できるように、規制を緩和してほしい。
- 一年生を勧誘するタイミングを作って欲しい。
- 運動部以外も、大学構内の施設を使えるようにして欲しい。
- 演劇系のインカレサークルに所属しています。サークルの性質上駒場キャンパス内の施設を他大生を含めたメンバー全員が利用できないと活動を継続することが難しいです。現在所属しているのは2年生と新歓で新しく入ってきた1年生のみです。2年生は来年の夏に引退ということもあり、それまでに他大生含めた1年生に榎音広場やキャンパス内の小劇場でしか教えることのできない特殊な知識や技術を引き継がせなければなりません。これ以上入構規制が長引けばサークルの存続すら危うくなるという状況です。本来であればこの時期に1年生にキャンパス内の小劇場でいるいるなことを教えることができるのですが…。A セメスター中に他大生も入構可となることを強く望みます。
- 屋外に椅子や机を多数配置して、そこでの活動を認可してほしい

- 屋内系サークルやインカレが活動できるように何らかの配慮をしてほしい。本当にサークルがつぶれてしまいかねない。
- 学外者も学内者同様に感染拡大防止の対策をしたうえで入構を許可して欲しい。現在学外者の入構が原則禁止であり入構許可の目途が立っていないが、大学は以前より大学の枠を超えた学生同士の交流の場となっており、学外者の入構を禁止することは課外活動の主要な意義を失わせることになると思われる。もちろん新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐことは肝要であるが、事前に入構者を登録し管理することで学内者と大差なく対策をとることはできると考えられるため、大学には可能な限り早くそのような方向に進めていただきたい。
- 学校の施設をもっと使えるようにして欲しい
- 学生の現状をもっと見て判断してほしい。
- 活動の性質にもよるが、週一回程度のキャンパスでの活動を認めて欲しい。
- 感染症対策を徹底した上で、順次今まで通りの活動に戻していく
- 感染対策を適切に行う団体に対しては、キャンパスプラザ、学生会館等の屋内施設の使用を許可してほしい。
- 現在はまだ未定だがもし駒場祭が対面開講になった場合は展示の準備のため安全性には注意しながら期間限定でも活動制限の緩和をしていただきたい。
- 柔軟に対応してもらいたい。
- 少人数でのゼミ等を学内で行いたいですが、どの程度許可されているのかよく分からない。なるべく早く許可して欲しい。また、学外者の立ち入りを禁止することは妥当であると思うが、1, 2人程度の学外者は東大生が申請して健康状態の申請を行うことで入構を許可して欲しい。これは、学外者とのゼミをキャンパス内で行いたいからである。
- 新歓は相変わらずオンラインとしても、オンライン新歓についての立て看板やビラは認めて良いのでは？
- 制限はあるべきではない。学生自治の観点からして現在の状況はふさわしくなく、制限の撤廃を強く主張するべきである。
- 制限を緩めてほしい
- 多少は放任すべき
- 対策方針を具体的にしてほしい。
- 団体によって新歓活動の有利不利があるようなので、教務課もオンライン勧誘のサイトなどを支援するなどしてはどうだろうか。
- 特にないです。
- 普通に活動させて
- 部活動含めサークル活動は全面的に開放してほしい
- 部室での活動を再開させてほしい。

【学部執行部との意見交換会について】

(説明)

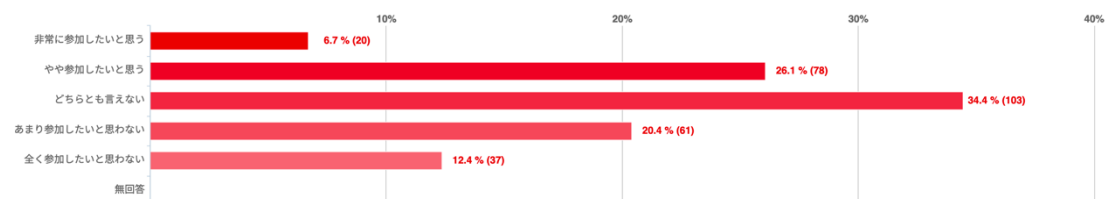
学生自治会では、オンライン授業や課外活動などの対応について学部執行部と学生自治会学部交渉局とで意見交換会を開催できるよう、学部と交渉を進めています。

この意見交換会は、Zoom 等で開催し皆さんにも傍聴で参加できるようにし、またチャットを利用しその場で質問や意見も伝えられるようなことを考えています。

Q37 上記の意見交換会が実際に開催されれば、参加したいと思いますか。

回答数：299

○グラフ



Q38 学部との意見交換会について、こうすればよい、こうして欲しい、ここは良くない等のご意見をなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：22

○回答

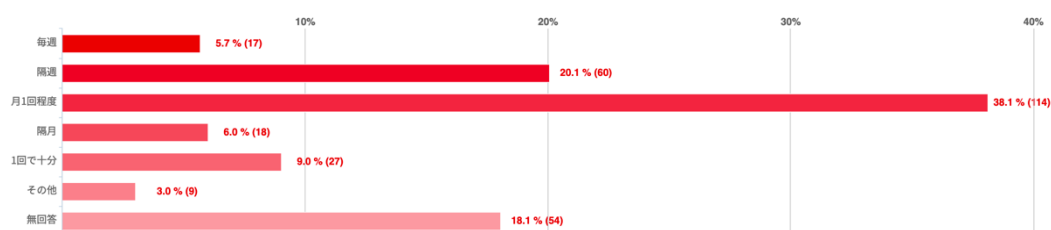
- 1年の評価が重すぎることと再履の最高点をあげて欲しい
- SNSなどの情報を見ると、特に新生はかなり強く対面を要望している一方、上級生にはオンライン形式に満足している学生も少なくないらしい。このあたりの意見の差異を踏まえつつ、偏りのない学生側からの意見を伝えて欲しい。他の意見交換会
(<https://utelecon.github.io/events/2020-luncheon/>など)で伝えられた学生側の意見にはかなりの偏りがあると感じられる。大学側は今回の件で本当に苦労しているのが分かる。その大学に対して厳しい意見をぶつけるのは気が引ける部分もあるが、まずはストレートに学生側の意見をぶつけて欲しい。そのあとですり合わせをすればいい。
- できるだけ早く開催してほしい
- どのような意見が出たか周知して欲しい。
- やりとりは公開してほしい。
- 学生の真摯な意見を余すことなく伝えていただきたい
- 学生もそうではあるが特に教職員の方が感染時のリスクが大きいので、交渉にあたってはむやみに規制緩和の要望に前のめりになるのではなく、安全性を十分に考慮するという大前提のもとで議論する姿勢をとっていただきたい。
- 学部からのフィードバックはあるべき。(○○という意見を取り入れてこうしました。or こういう理由で受け入れられませんでした、など)
- 頑張ってください
- 結果に関してはTwitterなども利用して十分周知してもらいたい。
- 参加する気はない
- 事前に議題が知られると良い
- 自分でも無責任な意見が言えないから、純粋な要望を述べられない。大学側から仕方ないんですよという説明をされるだけの時間になりそうだと感じる。
- 周知の仕方を考えて欲しい。ユータスを使ってメールが届くようにするなど。
- 終了後に議事録を公開してほしい。
- 新生の中でもとくにSセメスターの負担が大きかった人や精神的につらい状況だった人が参加して意見を表明できるようにして欲しい。1年生の中でも状況の捉え方にかなり差があるので、とくにつくはなかったと言う人だけの意見が取り上げられないで欲しい。
- 前提として既に学部が考案・把握している意見や情報は事前に&交換会の初めに共有した上で話し合いを始めてほしい。

- 他の大学との比較、感染者の年代層、都や国の政策の現状を踏まえた上でなるべく対面授業を増やす方針で検討してほしいと伝えてほしい。
- 同情を誘うものじゃなくて、理屈にのっとったまともな返答を返してほしい。
- 発言の機会が欲しかったので、意見交換会の開催は素晴らしいと思う。
- 非常にいいと思います。
- 録画や議事録を公開してほしい。

Q39 学部執行部との意見交換会の頻度について、こうすればよい、こうして欲しい、ここは良くない等のご意見をなるべく詳しくお聞かせください。

回答数：299

○グラフ



○その他

- なるべく早いうちに 2、3 回開き、議論の進み具合に応じて頻度を考えつつ定期的に開く
- なんでもいい
- よくわからない
- 期間も交渉の余地があると思う。どれくらい話が進むのかにもよる。
- 通常時は 1、2 ヶ月に 1 回でも十分だろうが、学期の開始時や規制の変更時は回数を増やすべきで、毎週行っても良いと考える

【その他】

Q40 その他学部に伝えたいことがあれば自由に記述してください。

回答数：44

○回答

- 1年生だけでもいいので対面をもっと増やして欲しい。入学式も合格発表もなくなっても我慢してきたが、あまりに期待していた日々と異なりそろそろ辛くなってきた。
- 1年生の交友関係のみならず、2年生の進学選択内定先での交友関係も考慮していただきたい(特に人数がさほど多くなく(概ね50人以下)で通常時は同期での交流が活発な進学先)もし交流イベントがない場合、Twitterをやっていないで元からの知り合いも多くない人は大人数ではない学科では一人ぼっちになりうるので学生間の交流は重視していただきたい。健康維持のため、長時間パソコンに向き合う必要がある大量の課題の削減を強く要望する。
- Aセメの授業の実施に関する情報を第二波の前に発表したの、地方に帰省していた私としては第二波発生後に更なる発表(やっぱり対面全部やめます等)があるのか・ないのかにかなり注意を割かなければならなかったの、夏休みは2ヶ月と長いのであるから流行状況は刻々と変わる(実際に変わった)ので、例え実施状況に変更がなくてもせめて月1回程度(9月初めなどに)は「この方針のままします」といった発表が切実に欲しかった。
- Sセメは課題三昧で、友達もできず、部活もさして活動できず、オリ合宿も五月祭もなくなって、なんのために大学に入ったのかわからない日々が続きました。もしAセメも同じような状況だったら留年してやろうかとも思います。もし今年の1年生の半分が留年したら、来年度の募集人数が半分になってしまい困るのではありませんか?このようなことを言うのも変ですが今年の1年生を大事にしてください。お願いします。
- Sセメ全面オンラインの取り組みは見事であったし、対面授業や課外活動など、様々な面で我々の要望に応じて頂き、十分な説明をして頂いていることに深く感謝する。以前の大学生活に向けた、更なる活動規制緩和、対面授業の拡大を求めたい気持ちもあるが、そういった欲求と片方の天秤にかけられるのは感染対策、ひいては人命であることも理解している。あくまでも人命を優先した上で、可能な限り我々の要望も考慮して頂き、今後も十分な説明を果たして下さることを期待する。
- UTASのシラバス検索を使いやすくしてほしいです。特に履修について右も左もわからない今年の1年生にあればかなり酷だったと思います。
- Wi-Fiの無料貸し出しを行って欲しいです。
- オンラインでも施設利用料を含む通常通りの学費を請求されることに納得できません。金銭面について誠実な説明と価格の見直し等の対応をしてください。結局、アルバイトのために外出しています。授業と同等の感染リスクがあると思うのですが、どうお考えでしょうか。

- オンラインを続けて欲しい
- オンライン授業となった分の学費を再検討してほしい。
- ここまでの記述欄に書いた内容と重複するが、科目の仕組み上どうしても不可能な場合を除き全ての授業でオンライン授業を用意し、対面授業に参加できない学生が不利にならないよう徹底して注意してほしい。対面授業自体に反対するわけではないが、代替措置として絶対にオンライン受講を可能にするための整備が必要だと考える。
- コミブラが開かない理由を、教えて欲しいです。
- ぜひ対面を増やしていただきたいです。よろしくをお願いします。
- とにかくいい加減対面授業を早くやれ。 いつまでオンライン授業をする気なんだよ。 ほとんどオンライン授業でそんなに対面授業はないのに授業時間を縮めたら無駄に学習機会を削られていような気がしてならない。 昼食時の混雑緩和は大切だが、わざわざ 1, 3, 4, 5 時限目の後に時間を長く確保する必要はない。25 分は長すぎる。かえって友人との濃厚接触の時間が増えるだけだ。
- どのような対応が適切であったかの評価は最終的に終息してからでないといけないと思います。現時点で考えられる範囲では適切な対応を進めてくださっていると思うので、これからもよろしく願いいたします。
- まず、一部でも対面授業を再開してくださり、本当にありがとうございます。S セメスターは初めての一人暮らし会ったことのある知り合いが全然いない状況でとても辛かったです。また、大学に入学したという実感も中々湧きませんでした。世の中が大変な状況で理解はできていますが、大学に行きたいと常に思っていました。ですので A セメスターから大学に行けて非常に嬉しいです。本音を言えば、もっと対面授業を受けたいので、最初の対面授業がうまくいき、準備ができましたら人数がそれほど多くない他の授業も少しずつ対面に戻していただきたいです。また、高校三年生の後輩たちから今年の入試が不安だという声も多いです。入試の際にどのような対策、対応を取るのかについても早めの公表をしていただきたいです。他の大学に対しても良い見本となるようによろしくお願いします。
- 学生との相談をしない、当局の中での会議の状況を逐次報告しない、報告の内容がファジーである、といった学部のやり方は、学生の不信感を非常に高めている現状である。本当に COVID-19 対策を真面目にやりたいならば、学生との対話を増やし理解を得るように最大限努めるべきである。それとも、大学のスタッフはまともに報連相もできないのだろうか。
- 学費を減免する気はないのか。使えもしない図書館利用料なども例年通り払わなければならないのか。
- 学部（特に理学部数学科）の授業が対面で行われないことは非常に残念に思います。仕方ない面もあることはわかりますが、できれば早くオンラインから通常の対面式講義へと戻ってもらいたいと思います。

- 学部の対応に関して必ずしも全ては評価できないが、より良い授業を提供できるようオンライン化などに尽力していただいたことは評価できると思う。その点、それに関わった学部のスタッフには感謝したい。
- 学部の発表によれば、来年の S セメスターも総合科目などはオンラインで開講されるように思われるが、そうすると私たち新 2 年生は再び全面的にオンライン授業にもどる可能性が高くなると思う。そうすると私たちの代はほとんど駒場でのキャンパスを送らないまま(1 年の A セメスターのみたまにキャンパスに行ける程度になる)、後期過程に進むことになる。よって来年以降はある程度は 2 年生もキャンパスに通えるように配慮してほしい。
- 完全対面授業をすべきである。学校はクラスターが発生し大学の名が汚れるのを恐れ、学生の学びの機会を奪っていることに気づくべきである。
- 企業でクラスターが発生したら、企業の名前が公表されることは少ないのに、学校や老人介護施設などでクラスターが発生したら、その名前が公表され、時には叩かれる。天理大学の例もそうだ。これはおかしい。この風潮をかえるために、オンラインを推進して感染者を出さない大学ではなく、対策を徹底して対面授業を行う大学が評価される世の中になって欲しい。そのためにも、日本の最高学府である東京大学が率先して完全対面授業を行うべきだ。
- 教員によって成績の付け方が大きく異なるのは不公平だと思う。
- 原付程度学内駐輪場に駐車可能にしてほしい。二輪というだけで入構不可な理由が不明であるし、電車を利用しないことによる感染症リスク低減にもつながる。
- 現行の判断は素晴らしいと思います。
- 実験は絶対に対面で。
- 授業は極力オンラインにするという方針に異論はないが、試験はオフラインにして欲しい。
- 図書館を、一日中使えるようにしていただきたいです。というのも、図書館は今の時点で使用している人が非常に少なく、密になるような状況ではないからです
- 生協で教科書買えないのはおかしいと思う。送料が高すぎる。 オンライン申し込みで、対面授業の時に、生協受け取りさせて欲しい。
- 全面的にオンラインにして欲しい 移動リスクが高すぎる
- 対応お疲れ様です。
- 対面授業を全体的に再開すると決める場合には数ヶ月の余裕をもって発表してほしい。また、セメスターを通して開講形態を一貫してほしい。
- 大学側が頑張ってくれているのはよく分かる。ただ、オンライン授業にはどうしても原理的な欠陥が多い。だからどうしても言葉が厳しくなってしまうのだが、大学側への不満があるのではなく、やるせないばかりである。
- 地方在住の苦学生について配慮してほしいです。
- 地方生に対する、学部としての配慮をお願いしたい。
- 直前になって A セメスターも全面オンラインにすることだけはやめてほしい。流石に精神的に限界なので。

- 特にないです。
- 特になし
- 発表の場を纏めて欲しい
- 普通に活動させて
- 勉強も大事だが、学生の精神的な面のケアを怠ってはいけない。
- 未知の対応ということはわかるが、少々杜撰で学生は多くの無駄な負担を強いられていた。
- 履修の選択や授業の受け方から勉強の進め方までもっと学生の選択に委ねるべき それに対して、柔軟な対策をとるのがよい

Q41 その他学生自治会等の対応について何かご意見があればお聞かせください。

回答数：16

○回答

- あげた意見がどのように交渉に反映され結果を出しているのかわからない
- お世話になってます。ありがとうございます。
- こうした学生の意見を集め、対応していてとても心強く思います。あと、アンケートが少し長かったです。
- これまで何をしてきたのか、期末テスト関連を省みると、学生と学部の中継も果たしていたのかわからない。
- わがままばかりでごめんなさい。ですが、本当に病んでしまっていたことは事実です。訳もわからぬまま時と将来的に影響する評価、そして友人と助け合うどころか出会う機会さえ奪われた状態が押し進められてしまいました。一生徒の意見として考慮していただければ幸いです。
- 意見交換会の提案など、お疲れ様です。
- 引き続きアンケートは実施して欲しい。
- 学生のために頑張ってくれてありがとうございます。
- 学生の意見を集める機会を作ってくれたこと、感謝します。
- 学生の考えていることは様々だと思うので、意見を反映させるためにアンケートを取ってもらえて非常に助かる。
- 授業が 90 分になった学部もあるということで、自治会の成果だと思います。ありがとうございます、お疲れさまでした。引き続き、全学部が 90 分になれることを期待しています。
- 大学に全対面授業再開を求めてほしい。
- 特にないです。
- 特になし
- 病んだこと少々書いてすみません。このような状況下で活動してくださりありがとうございます。
- 良い感じだとは思う